

Bulletin 276

2018 夏号



Annual Report 2017

COLONNADE

2018年度支部長活動方針／支部総会報告
大学院修士設計展／学生課題設計コンクール

FORUM

海外レポート／覗いてみました他人の流儀／温故知新／委員会、部会、地域会活動報告／日本版CABEを考える



日本の木を使って 100年先を考えた家具づくりを実践

株式会社ワイズ・ワイズは、1996年創業の家具・インテリアの製造販売メーカーです。使用する木材すべてをフェアウッド（違法に伐採されていない木材）で徹底し、安心・安全・健康・長期使用を約束した家具づくりをしています。近年はとくに国産材を積極的に使い、日本各地で地域の人と一緒に地域の木を活用して、環境と雇用に貢献するプロジェクトを進めています。現在ではその取り組みに共感する企業が増え、飲食店やホテル、さらにはオフィスでも国産材商品を使用する事例が増えているそうです。今回は佐藤岳利社長に国産材による家具づくりにいたる経緯や想いをうかがいました。

フェアウッドで 環境に配慮した家具をつくる

大学を卒業後、乃村工藝社に入社し、7年ほどシンガポールを中心にアジア諸国で勤務しました。旅が好きだったこともあり少数民族の村を訪ね歩き、電気もガスも貨幣経済も存在しない地域がまだたくさんあることを知り、それでも楽しく生活している姿に驚きました。その体験から、文明社会に生きる我々はお金やモノに溢れた暮らしをしています、それだけではない、本当の豊かさを追求する仕事をしたいと思うようになりました。

その2年後、日本の本社で勤務している時に社内ベンチャーの募集に事業企画を提出したら幸運にも受かり、そこで設立したのがワイズ・ワイズです。

豊かな暮らしを創造するライフスタイルブランドを目指して家具の製造・販売を始め、会社は急成長しましたが、売上が伸びるほど利益が出なくなり、業界全体のローコスト化も進んで、他国で安く家具を作らないと予算に追いつかず、リーマンショックも重なり経営危機に陥ってしまいました。

そこで改めて創業当時の想いに立ち返り、環境NGOの協力を得てインテリアのオーガニック、ナチュラルブランドとして会社を再生することを決意しました。2008年にはグリーンカンパニー宣言をして、日本で一番環境と社会に配慮した、フェアウッドを使った家具・インテリアのブランドメーカーになることを発表しました。

すぐに原材料のトレーサビリティに取り組みましたが、当時扱っていた商品は海外の木でつくられたものが多く、その合法性の証明はとて大変な作業でした。現在日本の木材自給率は30%程度で、違法伐採の可能性のある安い木が多く輸入消費されています。また、国産の木が使われなくなってしまったことで林業が崩壊し、山が荒れて、杉花粉問題や獣害、そして雨が降れば土石流が発生する被害が繰り返されていることがわかりました。

そこで、当社は海外の木の使用をやめ、日本の困っている地域と手を組むことにしました。我々が仕事をすれば日本全国の山間部の環境が整備され、そこに暮らす人々に仕事が生まれる。こんなに最高のことはありません。今では日本全国の林業地と繋がり、基本的にはその地域で製材してその地域で家具をつくることに取り組んでいます。

森と地域と人を繋いで 日本の林業を活性化

今は受ければいいという価値観で消費をすることが多く、家具も非常に安価です。しかし、私は繋がる幸せもあると思います。私たちがつくるものは



ホテル「セトレマリーナびわ湖」(2013)。建築、内装、家具など随所に地元の滋賀県産材を活用している。ワイズ・ワイズは企画・設計・施工のすべてに関与。

すべて森に繋がっています。誰が木を伐って、誰が卸して製材しつつあるかが特定できる。それが私たちのやっていることです。森づくりは100年かかると言われ、林業に従事する人は自分たちが生活できるのは100年前の先代たちが木を植えて山づくりをしてきたからだと言います。そのような価値観と時間軸で生活している日本の地方にいる大勢の人たちと繋がって、その中からこの思想・哲学を理解してくれる人と仕事をしたいと思っています。

今は、「国産材を使っている、違法伐採木材を使っていません」と言っても買ってくれるような時代ではありません。少しずつでもその潮流をつくろうと勉強会やセミナー、シンポジウムを数多く行い、当社の考えに共感してくれる人と繋がるために奔走しています。



ワイズ ワイズ
ショップ WISE・WISE 表参道

<http://wisewise.com>

WISE・WISE

東京・表参道のショップでは、オリジナル家具を展示・販売しています。インテリアに関するご相談にも応じます。

東京都渋谷区神宮前5-12-7 TEL: 03-5467-7001 FAX: 03-5467-7002
アクセス: 東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅から徒歩5分
銀座線・半蔵門線 表参道駅から徒歩7分、JR原宿駅から徒歩9分
営業時間: 11:00~18:00 (定休日: 土、日、祝日)

●日常使いできる伝統工芸品ショップ「ワイズ・ワイズ ツールズ」も運営。



CONTENTS

Annual Report 2017

支部長挨拶

4 1年の活動を振り返って JIA関東甲信越支部 支部長 藤沼 傑

委員会活動報告

5	総務委員会	広報委員会	建築相談委員会	保存問題委員会
6	苦情対応委員会	支部建築家資格制度実務委員会	クライアント支援委員会	都市・まちづくり委員会
7	建築・まちづくり委員会	災害対策委員会	国際事業委員会	環境委員会
8	アーバントリップ実行委員会	建築セミナー実行委員会	JIAトーク実行委員会	学生デザイン実行委員会
9	大学院修士設計展実行委員会	アーキテクト・ガーデン実行委員会	交流委員会	2018全国大会実行委員会
10	委員会一覧			

地域会活動報告

10	神奈川地域会	千葉地域会		
11	埼玉地域会	茨城地域会	栃木地域会	群馬地域会
12	山梨地域会	長野地域会	新潟地域会	中野地域会
13	三多摩地域会	杉並地域会	新宿地域会	城東地域会
14	文京地域会	渋谷地域会	世田谷地域会	千代田地域会
15	中央地域会	城南地域会	城北地域会	港地域会
16	目黒地域会	地域会一覧		

部会活動報告

16	デザイン部会	都市デザイン部会		
17	住宅部会	メンテナンス部会	住宅再生部会	情報開発部会
18	建築交流部会	建築家写真倶楽部	再生部会	ミケランジェロ会
19	金曜の会	学芸祭部会	部会一覧	

COLONNADE

20	2018年度支部長活動方針	ウイスト建築設計	藤沼 傑
21	2018年度 支部総会報告	榎本建築設計事務所	榎本雅夫
22	第16回JIA関東甲信越支部 大学院修士設計展2018	日本大学理工学部/佐藤光彦建築設計事務所	佐藤光彦
23	第12回JIA北関東甲信越 学生課題設計コンクール2018	ナカノデザイナー級建築士事務所	中野一敏

FORUM

24	海外レポート	パブリックとプライベートが交錯する空間	Eureka	佐野哲史
26	覗いてみました他人の流儀	tupera tupera 亀山達矢氏に聞く 子ども心で絵本を楽しむ	Bulletin 編集WG	
28	温故知新	抱負を語る 「覧古考新」	岡由雨子建築デザイン	岡 由雨子
		抱負を語る 「共同作業論・続」	佐々木達郎建築設計事務所	佐々木達郎
29	委員会活動報告	アーバントリップ実行委員会 第86回JIAアーバントリップ	大竹海アトリエ	大竹 海
30	委員会活動報告	交流委員会Bグループ	双和化学産業	菅谷聖史
30	委員会活動報告	交流委員会Dグループ	ココヨ	飯沼朋也
31	委員会活動報告	環境委員会	長井淳一建築アトリエ	長井淳一
31	部会活動報告	建築交流部会	アトリエ・アーキポスト	観音克平
32	部会活動報告	建築家写真倶楽部	兼松設計	兼松 紘一郎
32	地域会だより	栃木地域会	睦和建築設計事務所	阿久津新平
33	地域会だより	新潟地域会	平原設計事務所	平原 茂
33	地域会だより	長野地域会	アーバー建築事務所	山口康憲
34	JIA建築家大会2018東京 告知			
38	日本版CABEを考える	市民の声をまちづくりに活かす仕組み	景観と住環境を考える全国ネットワーク	上村千寿子

BACKYARD

39	コラム	映画紹介「北の桜守」	ワイス・ワイス	立石博巳
39	編集後記			

2 パートナーズアイ 株式会社ワイス・ワイス 日本の木を使って100年先を考えた家具づくりを実践

2017年度

1年の活動を振り返って



JIA 関東甲信越支部
支部長
藤沼 傑

2016年6月の総会にて支部長を拝命いたしまして、1期2年を終えました。この2年間、多くの会員の皆様からのご指導をいただき、感謝申し上げます。

最初の年は、会員数が減少している中で、支部内の多彩な活動を整理すべきではないかという問題提起をさせていただきました。2017年度予算においては、この多彩な活動を維持することを前提に赤字予算を策定しました。2017年はJIA全体の会費収入が固定費を下回る分岐点であることを明示し、支部内の委員会構成、東京の地域会、支部さらにはJIAの在り方について、この2年間で多くの協議をしてきました。その間、各委員会、部会、地域会が多彩な活動を継続しました。

2017年6月に恒例となったアーキテツガーデン、市民に向けたイベントを、支部および各地域会で25プログラムを開催しました。建築相談は、(公財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターと連携し、支部全域で269件の相談を受けました。建築・まちづくり委員会は、JIAまちづくり会議と2016年度に行政向けに作成した「コンペ・プロポーザル支援リーフレット」に続き、「良質な建築・美しいまちづくり萌芽事例シート」の作成にも協力し、各自治体への働きかけを進めました。約20講座の建築セミナー、年4回のJIAトーク、年3回のアーバントリップ等も従来通り継続しています。各種部会活動も活発で、部会主催のイベントは合計50近く実施しました。設立から約10年が経過した都内の14の地域会でもセミナー、街歩き、ワークショップ等、総数50以上のプログラムを活発に実施しました。さらに、地域の地

域会も合計で70以上のプログラムを実施しています。

総数で見ると、これほど多くの活動を効果的に社会に発信するため、支部ホームページを2018年1月に刷新し、各イベント予定を一覧できるようにしました。また、活動を資産として残していくため、開催後の報告も掲載するようにしました。

このような活動の結果、2017年決算は黒字であったことは、一つの結論です。支部構成についてこの2年間の議論と、活動と予算の実績から、2期目の2年間の方針を皆様とさらに協議し、具体的な行動をしていきます。

JIA会員としての活動では、5月にアルカジアのインド国ジャイプール市の大会に参加し、今年の開催国としてアルカジアの旗を受け取ってきました。

その後は、大会準備に多くの時間を費やしました。

9月には、ソウルで開催されたUIA大会に参加しました。ゴールドメダルは伊東豊雄氏が受賞し、さらに若手の相坂研介氏も公共空間部門で受賞しました。

東京三会建築会議は毎月開催しました。待機児童問題解消WGが東京都と進めてきた保育所の採光規定緩和が国土交通省から10月にパブコメが公示され、東京都においても緩和が実現することになりました。

2017年度もこれだけ多くの活動を展開できたのも、会員の皆様の熱いパッションを支えていただいた法人協力会員の皆様、個人協力会員の皆様、各行事に参加していただいた市民の皆様、関連団体の皆様、そして我々の活動にご理解をいただいている行政の皆様の熱いご支援のお陰です。ここに感謝申し上げます。(ウイスト建築設計)



ARCASIA インド大会で2018年東京大会に向けて、大会旗を受け取る



UIA 大会では相坂研介氏が公共空間部門で受賞

総務委員会

委員長 榎本雅夫



入退会審査、会員集会等イベント準備、規約類から予算計画に関わるまで多岐にわたる課題検討、会員拡大ワーキンググループ……総務委員会の仕事の多くは裏方に回るものだが、それらが会員活動の基盤となることへの責務を常に感じている。

特に検討を要したことに次年度予算の立案がある。会員減少に伴う収入減の続く状況下において、地域会、委員会等の活動を萎縮させることなく、いかに収支を成り立たせるのか。2018年度は広報予算の削減により黒字予算を立てることができたが、それから先に向けた持続的な方策は見えていない。JIAの意義を深め、魅力づくりやさまざまな活動の活性化による結果が会員減少の抑制につながることに期待したい。同時に2019年度以降の立案に際しては、支出の削減について、より踏み込んだ検討も不可避な状況であると思う。支部財政の現状と、より健全化に対する認識を皆で共有しながら予算計画に臨んでゆきたい。

〈榎本建築設計事務所〉

広報委員会

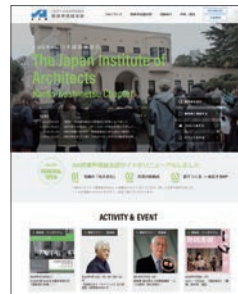
委員長 市村宏文



2017年度は、前年度から準備を進めていた改革を実施する年となりました。

今年度の主な活動をご報告します。

- ・毎月1回の委員会開催、Bulletinワーキング、HPワーキングもそれぞれで月1回開催しています。
- ・広報誌『Bulletin』の発刊。2017年度から年6冊→年4冊の季刊としました。発刊数は減らしましたが、毎号のページ数を増やし、新しい企画の連載も始め、内容の充実を図りました。
- ・支部サイト（ホームページ）は、これまでの運用を見直してサイトリニューアルの準備を進めてきました。総務委員会と合同による2回のプロポーザルコンペを経て制作会社を決定し、11月のプレ公開、それから地域会・委員会への運用説明会、試用を経て、今年1月に本公開しました。支部活動の見える化を中心として構成していますので、現在支部で行われていることがサイト上で分かりやすくなっています。今後、地域会・委員会の活動報告は、支部サイト上で行うことを予定しています。



新しくなった支部サイト

明会、試用を経て、今年1月に本公開しました。支部活動の見える化を中心として構成していますので、現在支部で行われていることがサイト上で分かりやすくなっています。今後、地域会・委員会の活動報告は、支部サイト上で行うことを予定しています。

〈エルスト〉

建築相談委員会

委員長 塩田純一



関東甲信越支部地域会相談室は5ヵ所の相談室で一般市民の身近な相談窓口として、71名で無料相談に対応しています。

2017年度の相談件数は下記の通りです。()は昨年度の数字です。

相談室	一般相談	トラブル相談数	相談件数	現地調査数
首都圏	44 (46)	112 (165)	156 (211)	25 (31)
神奈川	38 (11)	9 (48)	47 (59)	3 (16)
千葉	2 (3)	4 (11)	6 (14)	0 (1)
埼玉	7 (51)	53 (9)	60 (60)	2 (2)
群馬	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	91 (111)	178 (233)	269 (344)	30 (50)

269件の相談のうち91件が一般相談、178件がトラブル相談でした。今年度もトラブル相談が約66%を占めています。これを受けてセミナーWGでは今年度は「リフォームトラブル」というテーマでセミナーを開催し、広く一般市民に呼び掛けて注意喚起を行いました。

〈塩田設計事務所〉

保存問題委員会

委員長 加藤誠洋



昨今、永く使い続けられてきた建物に対する関心が高くなってきている。特にそういった建物の保存に際し、「残す」ことのみでなくまずどのように「活用する」のかが重要になってきている。ひとつは戦前・後の良質なストックがそろそろ建て替え時期を迎えたこともあろう。機能をどのように良質ストックに当てはめるか。そんな考え方が今後ますます重要になると思われる。今後の人口減少を考えても、欧州など、当たり前のように古い建物を改修しながら使い続ける「その道の成熟した都市」のように成熟度を高めていくことが必要であろう。機は熟している。

2017年度の当委員会はそういった「変化する保存問題」について、今が考えるべき時期とし、これまでの議論を踏まえながらJIAとして改めて「保存問題」の「問題」について話し合いを持った。

それは、これまで「情報を得た、壊される危機に直面した建物に出す要望書」の提出にかなりの時間を割いてきていた年間活動内容を多少変えることになったとしてもこれからJIAがどのようにストックを考えていくのかが重要と考えたからだ。限られた時間故、十分な議論が尽くされたとは言えない。しかし、変化する問題について柔軟な思考を被せていくことはできた。

社会は多様化する建物の保存(活用も含まれる)について期待に応えることができるかが重要と考えて、年次報告としたい。

〈のぶひろアーキテクト〉

苦情対応委員会

委員長 福富啓爾



苦情対応委員会は、建築主や一般市民から本会会員が設計した建物や会員に係る苦情に対応する組織で、公益法人には不可欠なものです。当委員会は公正な立場で活動するため、総務委員会委員長、建築相談委員会委員長、住宅部会長を含む9名の専門的な知見をもった委員で活動しています。

今年度も苦情申し立て案件があり、申し立て人、被申し立て人双方の円満な解決を図るために専任のWGによって事実関係の確認を行うとともに、慎重に審議し、双方が話し合い、顧問弁護士の助言も得て、現在は解決の方向で進行しています。

苦情が申し立てられる前には双方が紛争状態にあることが多く、円満な解決に至るには相当の時間を要します。本委員会は裁判所やADRではなく仲裁や裁定をすることはできません。双方が協議しても解決に至らない場合は、被申し立て人に明らかに非があると推定される場合を除き、以後双方が相手の立場に立って解決するように促して協議は終了することになります。

今後建築家に対する苦情も複雑化することが予想され、委員会としての対応方法の検討および会員に対する広報活動をさらに充実させてゆきます。

〈R設計社〉

支部建築家資格制度実務委員会

委員長 寺山 実



当委員会は「建築家資格制度」の運営のために支部認定評議会ならびに本部建築家資格制度実務委員会の補佐を目的としています。活動は登録建築家の新規申請、更新申請、再登録申請の審査書類および更新要件等を確認した上で、支部認定評議会への審査資料作成になります。昨年度は実績評価認定による新規登録者数5名、更新者167名、再登録者2名の174名です。新規登録者のうち、1名が実務訓練認定者です。同認定は登録建築家のもと、700単位および期間3年以上の実務訓練を終了した上で支部実務委員会または評議会による口頭試問(面接)を受けて総合的に審査されます。審査は作品プレゼンテーションを行い、「登録建築家として倫理性を有すると判断される者」を確認することを主眼とした実務訓練終了審査(面接)評価表に基づき実施されます。さらに今回は実績評価認定申請において1名の不合格者が出ました。作品審査および各書類上は概ね問題はありませんでした。登録建築家として根幹にかかわる「第三者性および自立性」に疑問が残りました。実務訓練認定者では登録建築家の指導によりますからこのようなことは起きませんが、実績評価認定での「第三者性および自立性」の判断への限界があると感じています。この点に関して当委員会では申請者への明確な説明を行うべく、議論を進めていく予定です。

〈寺山建築工房〉

クライアント支援委員会

委員長 中村高淑



Webサイト「建築家に会おう—アーキテクトファイル—」を通じて一般市民からの設計者選定の求めに応じ、システムに登録されている会員建築家を紹介するサイトを運営してきました。当時の建築プロデュース会社やコンパサイトの乱立という社会的背景を受けて、JIAにおいても窓口を設けようと数年の準備期間を経て、顧客支援システム委員会が2007年に発足。2010年には書籍『こんにちは、建築家です!』を発刊し、Webサイトのリニューアルや会員建築家の拡大、システムや委員会の更新、展示イベントやシンポジウムなどを行いながら、10年間に大小8件ほどの成約がありました。しかしながら、効果的なPR方法を模索するも利用者の拡大には至らず、特にここ数年はシステム利用者がほぼゼロという状況でした。プロデュース会社やコンパサイトもかつての勢いはなく、クライアントは建築家自身のサイトを見て直接依頼することが一般化した感があります。

そこで当委員会の存続意義について支部役員会および委員長会議、当委員会間にて協議の結果、12月の支部役員会にて2017年度をもってその役割を終え、廃止されることが決定しました。利用料金の徴収を財源に支部予算を圧迫する状況にはなかったものの、支部活動の見直しと組織の再編にあつて、今後は外部的なPR活動のミッションを広報委員会に統合し、活動を集約していくこととなりました。

〈中村高淑建築設計事務所〉

都市・まちづくり委員会

委員長 亀井尚志



都市・まちづくり委員会では、より良い景観・まちづくりを行うために以下のような活動を行っています。

まず、2009年より続けている土木分野(≒Built Environment)との協働活動として、建設コンサルタンツ協会との協働シンポジウム「誰が景観を創るのか」の第11回をJIA建築家大会のつくしま大会に合わせて開催しました。今回は、東工大の真田純子准教授に「これからの農村のあり方～環境・土木・建築・農業・観光」をテーマに基調講演をお願いし、参加者と意見交換を行いました。農村風景の捉え方について、農業は地域環境と密接に結びついており、持続可能な土地利用が美しさの要素であったというお話がありました。第4クールのまとめとなる第12回を、9月の東京大会で行う予定です。

この土木分野との協働の一環として、建設コンサルタンツ協会の村田会長とJIAの六鹿会長の対談を2月に行いました。両会長からは土木と建築が初期段階で調整できない現行制度の問題点等が指摘され、これからは公共主導のまちづくりから民間主導のまちづくりへとシフトするため、ますます土木と建築の協働が求められるという認識が示されました。またそのためには、教育や制度、設計基準が異なる両分野の人材が活発に議論し、協働できるプラットフォームづくりが提案されました。

〈三菱地所〉

建築・まちづくり委員会

委員長 黒木正郎



当委員会は、まちづくりを通じた建築家の職域を広げる仕組みづくりを活動の主目的としています。これまでの活動を通じて行政との良好な関係づくりの大切さを委員間で共有し、2017年度以降はその具体化に向けた活動を始めたところです。

2016年度に作成したツールである①行政向け「コンペ・プロポーザル支援リーフレット」ですが、JIAが自治体の主体的な建築づくり活動を支援をする組織であることを説明したもので、各支部地域会等での活用を促したいと考えています。また2016年度は②「良質な建築・美しいまちづくり萌芽事例シート」を作り情報交換ができるようにしました。これら2点は国土交通省が18年度の改定を目指して作成中の自治体への「発注者支援マニュアル」に反映させようとしています。会員への情報発信としては2016年以来③「日本版CABEを考える」をテーマに『Bulletin』へ寄稿を続けています。勉強会として、2018年1月11日に松本昭氏を講師として「建築と美しいまちづくりのための制度を考える『土地利用の協議調整システムと建築設計・地域空間設計』」を開催しました。

2018年度は美しいまちづくりのために、建築家としてまちの美しさをどう考えるか、それを日々の活動の中にどう織り込んでいくかという、建築家の本来の職能と美しいまちづくりの関係を考える活動に取り組んでいこうと考えています。〈日本設計〉

災害対策委員会

委員長 松下 督



2017年は大きな地震被害がなく、自治体からの被害認定等の要請はありませんでしたが、数年ごとに発生した震度7程度の地震被害に対して災害対策全国会議と協働し、JIA会員の自治体と連携して被災地住民のための支援活動をサポートしてきました。

東京都、弁護士会などの11団体で構成する「災害復興まちづくり支援機構」等のシンポジウムや活動にも参画しています。

2010年に策定した「JIAのBCP」は、時代の要請により改訂を行っています。

「JIA災害対策支援ネットワーク」で本部、全国の支部・地域会のネットワークの更新と公開が必要になっています。

〈日建設計〉

国際事業委員会

委員長 高階澄人



国際事業委員会の2017年の主な活動は下記の通りです。

とくしま大会では提携各国の協会長を迎え“Vernacular and Our Practice”「地域性と建築家の実務」というテーマによる国際会議を本部国際交流委員会と共同で開催しました。継続して行っているタイ王立建築家協会との「若い建築家の交換研修プログラム」においては、2017年度は第4期生として日本から2名・タイから2名を対象とした交換研修を実施しました。この事業は2018年度はいったん休止し、次の事業に向けての総合的な評価を行います。

UIAソウル大会2017においては、日本の若手建築家の「新領域」での活躍を紹介する展示と、被災した熊本城の復興の様子を示す展示を、木材を多用したブースも製作し実施しました。会員の海外進出を視野に入れた「海外アクションプログラム」についても国際交流委員会、JSBと協働を続けています。ハノイ、ホーチミン、ジャカルタで「クロスコラボレーション」と題した展示と発表を行いました。タイとのワークショップやスウェーデンとの交流も継続しています。2018年はアルカジア東京大会が開催されますが、大会開催時だけでなく、アジア諸国より注目されている日本の高い設計技術や品質を建設技術と併せて「日本の建築力」として紹介する試みを継続して展開していきたいと考えています。〈高階澄人建築事務所〉

環境委員会

委員長 寺尾信子



JIA建築家大会2017四国のJIA環境会議での報告内容とその後の半年の活動内容が2017年度の成果です。

- (1) アーキテックガーデンの見学企画「えねこや六曜舎」は「電力完全自立・オフグリッドの小規模建築」として社会的発信を重ね、現在も見学者が絶えません。
- (2) 長野地域会「JIA長野県クラブ」の継続活動：2015年6月24日の当委員会との共催セミナーに端を発し、長野地域会独自プログラム「信州“準寒冷地温熱教室2016”（全6回）」、「続・信州“準寒冷地温熱教室2017”（全4回）」は複数年の継続企画として地域に貢献しています。移動時間のかかる広い信州において“学び”がJIAの仲間を強く結びつける重要なテーマとなり、長野県全域の技術者・住宅建築に大きく貢献中です。
- (3) 当委員会が全国行事の幹事役として2018年5月12日にセミナー「再生可能エネルギー利用と建築デザイン」を企画および実施。環境というテーマを基盤に、全国各地域と共有すべき情報交換行事を推進し、ネットワークを緊密にする大切な役割を果たしています。東京で開催されるセミナーを関東甲信越支部全域もしくは全国で共有するため、幹事役を担いたいと考えています。〈株寺尾三上建築事務所〉

アーバントリップ 実行委員会

委員長 藤吉秀樹



2017年度に実施した見学会の概要です。

- 第84回アーバントリップ(終日バス)(2017年9月21日)
テーマ：街並みを伝承する建築手法・CLT工法による新しい木造建築の手法～伝統的建築物群保存の街並みを継承する建築手法とCLT工法の可能性を探る～
見学先：「伝承館」設計：渡辺真理+木下庸子 設計組織ADH／「つくばCLT実験棟」設計：青島啓太+芝浦工大赤堀研究室／「司工業つくばテクニカルセンター」設計：吉松秀樹+アーキプロ
- 第85回アーバントリップ(終日徒歩)(2018年2月11日)
テーマ：使い続ける住宅を訪ねて vol.2
見学先：「塔の家」設計：東孝光／「石津謙介邸」設計：池辺陽／「松川ボックス」設計：宮脇檀建築研究室
- 第86回アーバントリップ(終日バス)(2018年3月8日)
テーマ：地方公共建築の現在/いまそこにある問題とその解法
見学先：「川口市火葬施設・赤山歴史自然公園」設計：伊東豊雄建築設計事務所／「太田市美術館・図書館」設計：平田晃久設計事務所／「時間の倉庫」設計：福島加津也+富永祥子建築設計事務所
アーカイブ、報告書の作成、ならびにホームページへの掲載、可能な場合はビデオ収録と編集、記録なども行っています。
(藤吉秀樹建築計画事務所)

建築セミナー実行委員会

委員長 山梨知彦



2017年度のテーマは「見て、聞いて、建築を感じる」の2年目として、受講生は25名、実行委員は委員長、ワーキングスタッフを含め13名、そして、例年通り多くのセミナーOBの助けを借りて運営した。

年間を通してのプログラムは以下の通り、9プロジェクトで19講座とした。

1. 公開講座「東京一極集中が日本全体の活性化を牽引する」
2. 都市と地方のポジティブな未来について
3. 子供の居場所—保育園・幼稚園建築を通して
4. 現在の「都市住宅」
5. 猫との住まい
6. 四国・木と石の創作現場を巡る
7. NEXT LANDSCAPE
8. ベトナム建築ツアー—ヴォ・チョン・ギアの建築を訪ねて
9. コンピュータেশショナルデザインを味方につける

各回出席率も良く、本年も活性化できた。特にベトナムツアーは参加者25名となり、ギア建築ばかりでなく、ベトナムの農村住宅、公営都市住宅、高級都市住宅、町屋等々が見学でき、設計者にとっては有益なツアーとなった。 (日建設計)

JIAトーク実行委員会

委員長 阿部 勤



1976年よりスタートしたJIAトークは、日新工業株式会社の協賛のもと、今年度で170回目の開催を迎え、2017年度も例年通り4回開催しました。

今年度の講演は、第1回は住職 加藤精一氏による「私たちの宗教生活」、第2回はシャネル(株)代表取締役社長リシャル・コラス氏による「日本の建築(規則)の矛盾」、第3回はカー&プロダクトデザイナー 和田智氏による「次世代モビリティと暮らしのあり方」、第4回は国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介氏による「美術館のコレクションを育てる」でした。それぞれの観点からのトークはいずれも建築に通じるものとなりました。建築家のみならず多様な分野の参加者も増加傾向にあり、白熱した質疑応答やアンケートも年々充実してきています。委員会ではアンケート結果を次回以降に活かすようにしています。

また、今年度は音響環境を更新しました。これまでのマイク設備のほかにピンマイクを導入し、講演者のトークと映像・音楽の放映、司会進行と質問者の声をハウリングすることなく同時に行える室内環境を整えることができました。

他分野の講演者を招いて開催している、「建築分野」の入口にもなっているという責任感を持って、2018年度以降もより多様で活発なJIAトークを展開していきたいと思えます。

(アルテック)

学生デザイン実行委員会

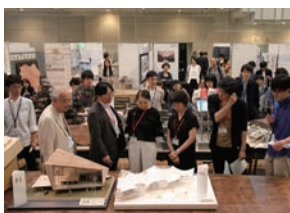
委員長 杉山英知



学生デザイン実行委員会では、第26回東京都学生卒業設計コンクール2017を2017年5月27日(土)、28日(日)に開催しました。

コンクールに向け、月に1回の定例会を開催し、会場の選別や審査委員の選定などを行ってまいりました。

2017年度の会場は工学院大学新宿キャンパス1階アトリウムです。23大学・専門学校から53作品が一堂に会した光景は圧巻でした。5月27日(土)には公開審査が行われ、審査過程を見ようと200名以上の来場者が集まりました。審査委員長には富永譲氏、副審査委員長に城戸崎和佐氏、審査委員には江尻憲泰氏、永山祐子氏、羽鳥達也氏を迎えました。長時間の審査を経て、金賞、銀賞、銅賞、審査委員特別賞の8作品を選出いただきました。また、前回大会より始まった奨励賞には1作品を選出しました。
(スタジオエイチ一級建築士事務所)



審査の様子



受賞者と審査委員で記念撮影

大学院修士設計展 実行委員会

委員長 佐藤光彦



「大学院修士設計展」は第16回目を迎えることができました。参加校は1専攻増え出展数は若干減りました。2012年度よりWEB展を継続しつつ、図面と模型を展示する展覧会を開催し、建築家の単独審査による審査、講評を行うこととしています。また、展示作品と審査・講評、各大学の研究室紹介を取めた作品集が総合資格学院の協賛を得て、毎年刊行されています。

次年度も、本展覧会が学生、大学教員、建築関係者、市民を結びつける活動に発展することで大学院教育に少しでも寄与できればと考えています。

会場設営に当たった実行委員および学生のみなさまの協力には、この場を借りて御礼申し上げます。

[展覧会]

会 期：2018年3月7日～9日
 会 場：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階
 審 査 会：2018年3月8日
 審 査 員：難波和彦氏
 参加大学：24大学(28専攻)
 出 展 数：41作品

〈日本大学理工学部／佐藤光彦建築設計事務所〉

アーキテツ・ガーデン 実行委員会

委員長 鈴木利美



最後のARCHITECTS GARDENとなった、 2017「社会と共にある建築祭月間」

1990年代に、建築家やJIAの多彩な活動・価値を広く社会に対して情報発信することを目的にスタートし、多くの会員、市民に親しまれてきたAG。惜しむ声もありましたが、支部組織再編の波もあり2017年度をもって廃止となりました。

最後となったAGでは、“建築家の日”

6月15日を挟む1ヵ月間、支部全域ネットワーク型イベントとメインイベントの2本柱で、合計25のイベントを開催しました。その内訳は、セミナー×12、展示会×2、街歩き×8、他×3。メインイベントは以下の3部構成でした。

- ①メインシンポジウム「建築的思考の可能性」：建築家を取り巻く厳しい状況のなか、建築家とその思考について社会的価値と可能性について探った
- ②委員会サミット：委員会再編に向け、支部長と各委員長、他支部幹事の出席のもと事業報告と意見交換
- ③パーティー：AGの締めとして、建築家バンドの演奏や支部各県地域会からのご当地自慢メニューを揃えた、賑やかで楽しい“フライデーナイト!!”



「日刊建設通信新聞」(2017.7.12付)

交流委員会

委員長 河野剛陽



2017年度の活動は、全体としては、JIA建築家大会2017四国での協力会員サミットへの参加、フレンズカップ、交流大会・セミナーを例年通り行いました。協力会員の業種別の7グループの活動も順調に例年通りできたと思います。しかし、交流委員会の目的は、正会員等と協力会員との交流を円滑にすることであるにもかかわらず、それほど新たな進展がなかったというのが実感です。2017年度も協力会員の退会が目立ちました。多くの正会員等との交流という意味では不十分でした。

2018年度の交流委員会の目標として、協力会員が各委員会にアプローチしていくことを考えていきたいと思っています。協賛というかたちだけではなく、一緒に作っていくJIA活動ということで取り組めないか模索していきたいと思っています。2018年度は、アルカジア東京大会2018、JIA建築家大会2018東京、2019年支部大会千葉とイベントが続けて開催されるため、交流委員会としては、これらの各大会へのかかわり方が今後の活動に重要なステップになるのではないかと考えています。

交流委員会では、各グループで建物見学会、ゴルフコンペ、懇親会等いろいろなイベントを開催しています。正会員等の皆様にもご案内しますので、参加をお待ちしています。より多くの正会員等との接点を持てるよう、他の委員会とも連携して活動方法も検討していきたいと思っています。 (IAO竹田設計)

2018 全国大会 実行委員会

委員長 藤沼 傑



2018年にアルカジア大会と同時開催する全国大会の実行委員会では、まずは大会開催の意義から検討を始めた。その結果、会員拡大を大会開催の最も重要なミッションとすることとした。

アルカジア大会との連携を重視し、テーマはアルカジア大会と共通とし、基調講演等を検討した。

大会のメイン会場は明治大学が提供してくださるということで、あと会場を確保する必要があるのは金曜日のレセプションパーティーのみとなり、六本木のグラウンドハイアット東京とし、予算とともに支部役員会の承認を得た。今年3月末にはJIA各委員会などが主催する主なプログラム応募も終わった。2018年9月開催に向けて、会員広報、パンフレットの作成などを進める。 (ウイスト建築設計)

●委員会一覧(2017年度)

総務委員会	委員長：榎本雅夫
広報委員会	委員長：市村宏文
・ Bulletin編集WG	編集長：長澤 徹
・ ホームページWG	主査：中澤克秀
建築相談委員会	委員長：塩田純一
・ 首都圏建築相談室	
・ 神奈川建築相談室	
・ 群馬建築相談室	
・ 埼玉建築相談室	
・ 千葉建築相談室	
保存問題委員会	委員長：加藤誠洋
苦情対応委員会	委員長：福富啓爾
支部建築家資格制度実務委員会	委員長：寺山 実
クライアント支援委員会	委員長：中村高淑
都市・まちづくり委員会	委員長：亀井尚志
建築・まちづくり委員会	委員長：黒木正郎
災害対策委員会	委員長：松下 督
国際事業委員会	委員長：高階澄人
環境委員会	委員長：寺尾信子
アーバントリップ実行委員会	委員長：藤吉秀樹
建築セミナー実行委員会	委員長：山梨知彦
JIAトーク実行委員会	委員長：阿部 勤
学生デザイン実行委員会	委員長：杉山英知
大学院修士設計展実行委員会	委員長：佐藤光彦
アーキテクト・ガーデン実行委員会	委員長：鈴木利美
交流委員会	委員長：河野剛陽
2018全国大会実行委員会	委員長：藤沼 傑

神奈川地域会

代表 飯田善彦



神奈川地域会ではこれまで3年間やってきた研究会、会員発掘のトークギャラリーなどをいったん整理し、2016年度2月に催した建築祭の盛況を今年度に繋げるため新しい企画にチャレンジしたいと考えた。その実現の一環として、10月27～29日の3日間、第1回JIA神奈川建築フォーラムと称し「都市木造が暮らしとまちを変える」というタイトルで、建築祭に応答する夏バージョンイベントを開催した。都市木造をテーマにしたのは、建築そのものに向き合おうと考え、ちょうどさまざまな文脈で転換期にある「木造」を学習、共有し、さらに横浜の公共都市施設を木造でつくる提案ができないかと勝手に夢想した結果である。すでに連携協定を結んでいる横浜市建築局とも話し合い、同時にこの分野で先駆的に活動し実現に取り組んでいる建築家集団team Timberizeにも相談し、JIA神奈川、横浜市建築局、team Timberize、3者の共催を実現した。

2月の建築祭は、このフォーラムを引き継ぎ「木がつくる豊かなまちの風景」をテーマに23～25日に行った。前回に引き続き7大学指導教員シンポジウムを皮切りに、やはり第2回となるデザインアワードを伊東豊雄さんを審査委員長に迎えて開催し、メインシンポジウムを内藤廣さんの基調講演を交えて催すなど、充実した内容であった。今回も4人が新たに入会している。

これからも建築フォーラム、建築祭を柱に、行政への提案や市民に対して建築の面白さや重要性、建築家の多彩な活動や意見を伝える活動等を展開していきたい。
(飯田善彦建築工房)

千葉地域会

代表 榎本雅夫



毎年3月に開催している千葉県建築学生賞が今年で30回を迎えました。作品の展示、審査だけではなく、一生の思い出となるであろう卒業設計を通して学生と建築家が熱心に語り合う場は、当事者はもちろん、そこに集う多くの人々にとっての自己啓発の機会として新鮮な空気に包まれます。先輩諸兄や関係者のご尽力により、回を重ねるごとに内容も多様化し、地域に密着したイベントとして成長し続けています。これまでの出展者でつくる「なの花会」は学生賞OB/OGの同窓会として交流が図られ、現在では「なの花会賞」も設けてイベントをより多彩なものにしています。また、県内工業高校建築設計作品展を併催するなど、建築づくりに関する興味をより幅広いものにしています。

百科シリーズとして毎年9月に開催している講習会は、会員や市民のニーズを反映した課題を取り上げています。専門分野やタイムリーな情報等について、千葉県の担当部署の方々や法人協力会員に講演していただく研鑽の場として定着しています。今回は補助金制度の活用をテーマに実施しました。

1月には新年の賀詞交換会に併せて講演会を行っています。今回は会員有志によるリレートーク「私がか大切にしていること」を開催。設計の過程で交錯する作者のさまざまな思いが作品スライドと重なり合いながら感じられ、空間を生むことの大切さ、楽しさを再認識する機会となりました。
(榎本建築設計事務所)

埼玉地域会

代表 村田行庸



4/8～11 ●第17回卒業設計コンクール展にて埼玉建築設計監理協会主催イベント共催実施。JIA埼玉賞を選出し、全国大会へ出展作品を推薦。7/27 ●新木場木まつり2017夏で内田祥哉氏に講演、パネルディスカッションの企画協力。8/27 ●「岩槻郷土資料館と昭和初期のアールドデコ建築」をテーマに講師派遣。10/7～8 ●浦和別所沼公園内のヒアシンスハウス前にて紙管を使った「紙の森」ワークショップを開催。100名以上が参加。10/14 ●新木場木まつり2017秋で「剣持勇の世界」「インテリアデザインとのインフィル」の企画協力。11/3 ●熊谷市のムサシトミヨを守る事業の一環として「熊谷こども空間ワークショップ」をJIA中野と共催。11/4 ●さいたま市南区ふるさとふれあいフェアにて展示ブース出展と絵画コンクールの共催を開催。

定例事業として建築相談を毎月大宮・川越で開催。

毎月懇談会として会員内外の参加者を募りプロジェクターを使い、参加者全員の情報発信と意見交換を行う。



紙管を使ったワークショップ

JIA埼玉では、会員同士や他業種の方との情報交換の場の提供し、それぞれの活動を応援していく為のプラットフォームを作っています。〈アライ設計〉

茨城地域会

代表 河野正博



「地域のために地域と共に」

茨城地域会は創設28年を迎え、建築家として「建築文化の創造・発展のために」また「地域のために何が出来るか」を模索しながら事業を行ってきました。

まず、9月に水戸市の中心市街地で開催される「水戸まちなかフェスティバル」において、恒例となりました、水戸市の地形模型に自由に建物を作ってもら参加型ワークショップ「みんなで水戸のまちをつくっちゃおう」を開催しました。今回で6回目となるこのイベントですが、例年と同様に開場前から子供たちの行列ができる人気のイベントであり、終了まで子供たちの列が途切れることはなく大盛況でした。2月には海外視察例会をニューヨークにおいて開催しました。今回は2年前のイタリアに続き3度目の海外視察例会でしたが、異国の違った文化の中に身を置き、その場所の人々の生活を見るのは大変刺激になります。

また、会員作品展「茨城の建築家展2018」を水戸市内のギャラリーで開催し、多くの市民の皆様にご来場いただきました。そのほか、茨城県消費生活センターで月2回の建築相談、(公社)日本建築学会関東支部茨城支所との共催による松岡恭子氏を招聘しての建築文化講演会、(一社)茨城県建築士事務所協会主催の茨城建築学生賞への協力とたいへん忙しく、また、とても充実した年でもありました。〈河野正博建築設計事務所〉

栃木地域会

代表 阿久津新平



栃木地域会は4つのメイン事業を核に活動している。①「まち歩き・建築見学会」はJIAと学生・市民をつなぐイベントで、7月に県北部にある室町時代創建の総茅葺屋根の黒



特別公開の猪俣邸の説明風景

羽山大雄寺伽藍、大正時代建立の民家猪俣邸、明治時代建立の国指定重要文化財旧青木邸那須別邸を訪ね、各時代の木造建築を堪能した。②「第24回スクールin栃木」は県内の建築を学ぶ学生との交流会で、11月に太田市美術館図書館、太田市市民会館、史跡金山城跡ガイダンス施設、国重要文化財旧中島家住宅を見学した。③「第34回JIA栃木クラブ賞」は卒業設計コンクールで、3月に特別招待審査員に建築家室伏次郎氏、招待審査員に地元で活躍の建築家2名をお招きして公開審査会を開催し、グランプリを決定した。室伏次郎氏による特別記念講演も盛況のうちに終了した。④「第12回JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール2018」、「第21回JIA群馬クラブ学生卒業設計コンクール2018」に審査員、実行委員3名が参加した。その他、10月に東北支部宮城地域会主催の被災地見学ツアーに2名参加した。また、今年新たに会員のサロン「栃木クラブ建築物語」を2回開催し、「スペインの旅」「カンボジアの旅」の話題で大変盛り上がった。このサロンは継続していきたい。〈陸和建築設計事務所〉

群馬地域会

代表 飯井雅裕



活動テーマ「ここにあるタカラもの」を昨年度から引き継ぎ、研究を深める1年とした。まず「タカラサガシ」と称した見学会を開催し、それぞれの地域・エリアの持っている固有の文化・歴史・風土から建築を見つめ直す場を設けた。7月の「東毛タカラサガシ」では、太田市美術館図書館と旧中島知久平邸を視察。館林では「歴史の小径」と製粉ミュージアムを見学した。9月の「西毛タカラサガシ」では、新たな拠点として生まれ変わる富岡倉庫や建設中の富岡新庁舎など新旧の建物整備が進む街を歩いた。11月には少林山達磨寺にて「建築学校」を開催し、視察報告と勉強会を行うとともに座禅や洗心亭でお茶会を行うなどメンバー研鑽の場を設けた。地域会冊子を手に取りやすいA5サイズに改め、見学会で視察したものを「タカラ巡りMAP」として写真とともに掲載した。3月には1年間の活動紹介とメンバーの作品展示「まちなか建築展」を高崎の「Caféあすなろ」で開催し、セミナー「まちづくりとタカラモノ」やメンバーによる「ギャラリートーク」を行った。「高崎中心街まち歩き」も同時開催した。

その他、CPDセミナーを2回開催し、また交流活動も積極的に進め、県内建築関連6団体とともに第6回「ぐんま街・人・建築大賞」の顕彰活動を行い、3月には第12回北関東甲信越学生課題設計コンクール2018と第21回群馬クラブ学生卒業設計コンクール2018を開催した。〈飯井建築設計事務所〉

山梨地域会

代表 奥村一利



山梨地域会の2017年度の活動を簡単に報告します。

- 建築見学会：テーマを持って3回の見学会を行った。第1回古民家、第2回適状状況調査、耐震補強しコンバージョンしたホテル、第3回中規模木造保育所(延床面積)2,247㎡。
- 千代田地域会との交流会：8月6日～7日、地域会の取り組みの発表と意見交換、建物見学、活動の課題などを議論した。
- 四国見聞：とくしま大会に合わせて、香川県庁舎、イサムノグチ庭園美術館、大三島など地域会として視察した。
- 住宅展：11月23日～25日山梨県立図書館、地域会メンバー6人の作品展示、テーマを持ったセミナー、ワークショップ「建築家と設計してみよう」を行った。テーマは、自然素材を使ってコンパクトに暮らす、古民家に住まう、50代からの家づくり。
- 美しい町づくり：美しい自然景観や地域の産業が作り出してきた特徴的な景観に価値を置き、行政、住民、企業との協働により、地域住民が誇りを持てる、美しい「まちづくり」を目指し4つのプロジェクトを立ち上げた。①ワインの聖地、②お城フロント、③レイクフロント山中、④桃太郎伝説と健康長寿。運営事業者の募集とマッチングなど課題が見えてきた。
- 山梨県高校卒業設計コンクール：卒業式前日に賞状の授与を行った。建築の楽しさを感じ励みになればと思い実施している。
(馬場設計)

長野地域会

代表 山口康憲



昨年度に引き続き、将来を見据えた会の改革と新たな事業の可能性を模索しています。当会では事業は基本的に各委員会が担当して行っていますが、従来のピラミッド型の構成から、なるべくフラットで会員一人一人が責任を持って運営する方向を目指しています。

今年度3年目を迎えた「環境セミナー」は、実務編として「続信州“準寒冷地温熱教室”」を4回シリーズで開催し、のべ200名の参加を得ました。

地域材フィールドワークは6月に南佐久のカラマツと11月に諏訪の鉄平石の勉強会を開きました。

恒例の夏のセミナーは7月29日に「建築物のライフサイクルCO₂削減について」の講演会を行い、冬のセミナーは12月3日に茅野市の藤森照信建築群の見学会を行いました。

10月には宮城地域会の案内で新潟・栃木・茨城地域会と合同で被災地復興の視察研修を行いました。

2月17、18日に中山英之氏を迎え、第12回建築祭を開催しました。今年からJIAの単独開催になり文化講演会、学生卒業設計コンクール、宮本忠長建築展の3部構成で行われました。

(アーバー建築事務所)

新潟地域会

代表 平原 茂



2017年度は下記の事業を実施した。

- 第13回学生課題設計コンクール(2月24日 職能短大)
県内の大学、専門学校、工業高校の8校から29作品が参加。他校との交流や、日ごろ意見を交わす機会の少ないJIA会員など実務者との交流の場を提供する目的で始まった大会であり、後日開催されるJIA北関東甲信越地域会の課題設計コンクールに推薦する作品を選ぶ予選会としての役割も担っている。
- 第20回大学卒業設計コンクール(3月10日、11日 アオーレ長岡)
県内の4大学から10作品が参加。審査員にSALHAUSの日野、栃澤の両氏を招き、7人の審査員による公開審査で各賞を選び金賞を全国大会に送り出した。SALHAUSの2人による講演会も実施し、参加した学生たちからの活発な質疑応答があった。
- 月例会における会員の発表会
毎月の月例会を活性化させる目的で、今年度から会員と協力会員を交互に講師とし、月例会の場で1時間程度のレクチャー実施。会員の手書きの原図の紹介や自作の発表などで月例会の参加者も増加した。来年度からはCPDの申請も視野に入れている。
- 他団体との連携の模索
JIAの活動を幅広く知ってもらうため、建築士会や建築士事務所協会と役員同士の交流会をJIA新潟の呼びかけで9月8日に開催した。会員の高齢化など共通の問題点があり、貴重な意見交換の場となった。
(平原設計事務所)

中野地域会

代表 小西敏正



- 建築家と沼津・三島をめぐるバスツアーを6月7日に実施。一般区民32名が参加。●熊谷市のムサシトミヨ保護センター(エコネットくまがやの要請)、小平第四小学校、東京女学館での空間ワークショップに参加。●中野区では



四季の都市 まち歩き

中野駅北口の中野区役所・サンプラザ地区再整備計画が進められているが、この計画を魅力的なものにするため、区に陳情書を提出し陳情が受け入れられ、区と建築の専門家団体JIA中野地域会・東京都建築士事務所協会中野支部(以下TAAF)による意見交換会がもたれることになり、今年に入り2度開催され、区の建築行政とのパイプ構築に一步踏み出した。●中野区役所サンプラザ地区再整備計画に関連して、豊島区南池袋に関わった専門家を呼び、区民の勉強会をTAAFと共催した。●中野四丁目新北口地区まちづくり方針の策定に対するパブリックコメントを地域会として提出し一部に対応が見られた。●区民に参加を呼びかけ、2月17日中野駅北口の「四季の都市 まち歩き」をTAAFと共催で行い、区民6名を含む20名で広場を囲む諸施設を見て歩き、当時、開発に携わった区の方から幅広い説明を聞いた。●財務省へ支部と連名で「旧豊多摩監獄正門の保存に関する要望書」を提出した。
(建築環境デザイン研究所524)

三多摩地域会

代表 高田典夫



新たな段階に入った空間ワークショップ活動

2017年度は、例年通り「子ども空間ワークショップ」が活動の中心となり、八王子市の3校、多摩市1校、武蔵野市の1校と東大和市の1施設の計6カ所での実施をコーディネートするとともに、他の地域会がコーディネートした神奈川、板橋、世田谷などで実施された空間ワークショップにも積極的に参加した。

そのことも踏まえて、2016年度試行的に実施した地域会の枠を超えた空間ワークショップ計画・実施のための受け皿を、今年度も引き続き実施するとともに、その運営方法など、具体的な問題点について、他の地域会から参加していただいている主要メンバーも加えて議論を重ね、空間ワークショップ・フォーラムという形で動き出すこととなった。その旗上げの意味もこめて、年度末になってしまったが、今年度八王子市立第五小学校での空間ワークショップの実施記録映像を編集してプロモーション・ビデオを作製し、JIA関東甲信越支部のホームページ上にアップロードした。

15年近い子ども空間ワークショップが新たな段階に入り、各学校の担当の先生方とともにさらなる発展を進めていきたい。
(アトリエテン/実践女子大学)

杉並地域会

代表 林 美樹



10年目となる土曜学校は「建築家の本棚」や毎年行っている見学ツアーも含めて開催しました。特にまち歩きは一般参加が多く好評でした。また、「杉並建築会」は、区から審議会や委員会、空き家相談員などの依頼を受けるだけでなく、積極的に行政との懇談会などを開催し、働きかけを始めています。

1) JIA杉並土曜学校

年間テーマ：「成熟するまちと建築 ～使い続けるために～」
第1回「建築家の本棚」+トークイベント「私の一冊」(5月20日)

JIAアーキテツ・ガーデン2017参加

杉並区立角川庭園・幻戯山房～すぎなみ詩歌館～
第2回「善福寺池周辺の旧井荻村まち歩き」(9月9日)

案内人：鳥越けい子

第3回「建築家と見る震災復興の風景」現地発着1泊ツアー
(11月11日、12日 岩手、宮城方面)

第4回「住宅地としての浜田山の移り変わり」～集合住宅とオープンスペースを巡る～(2月17日)

案内人・パネラー：青島裕之、吉田寛、田中豊子、曾根幸一

2) 杉並建築会 大会

「建築倉庫×建築アーカイヴズの意義と魅力」(10月21日)

講演：藤岡洋保氏

(Studio PRANA)

新宿地域会

代表 小倉 浩



2017年度の新宿地域会の活動は、年度初めの計画通り(1)会員増強運動(若手正会員1名、学生会員1名加入、若手中心のYG分科会発足)、(2)完成した建築マップ「新宿建築100景」の配布、(3)行政との連絡の緊密化、(4)地域会のあり方の検討、(5)一般も含めた講演と見学会を行った。

中でも特筆すべきイベントは、建築100景のマップの中から早稲田地区を選び、漱石山房記念館、西早稲田小学校、早稲田大学建築群を中心に、東京建築士会新宿支部、東京都建築士事務所協会新宿支部、JIA新宿地域会の3団体の共催による市民、行政を巻き込んだ講演と見学会の開催であった。「漱石山房記念館と建築巡り」は、区の学芸員である北見恭一氏、プロポにより選定された設計担当建築家の入江正之氏参加のもと、区の後援を得て3月24日に開催し、72名が参加し盛会のうちに終了した。



漱石山房記念館と建築巡りのフライヤー

今後も同様のイベントを行うていくことに、区文化観光課、他2会の賛同を得た。

(小倉設計)

城東地域会

代表 岸 成行



城東地域会は都内7区にまたがる広域地域会である。隅田川と荒川流域を中心とした台東、墨田、江東、荒川、足立、葛飾、江戸川区で構成される。在住在勤の会員は200名近いが、地域会活動に参加するアクティブ会員は、わずか10数名である。そのため、他の地域会と異なり、各区行政との双方向の協力関係は作り難い。そこで、地域や社会への発信に活動の重点をおきたい。

2017年度の活動として、5月の東京都学生卒業設計コンクールに協賛し、6月の隅田川クリーンキャンペーンに参加した。10月には、数年前から続く中央区立城東小学校子ども空間ワークショップを中央地域会と共催した。このワークショップでは、地域会メンバーが講師として、事前にグループ勉強会、構造レクチャーの出前授業を行い、子供たちの理解度を高める。また、学校公開日に合わせて開催するので、保護者の理解も得やすい。11月には墨田区にデザイン関係の学科移転の予定が決まった千葉大学建築デザイン発表会に参加した。そして、まち歩きマップ作成準備については継続中で、7月、12月、2月と調査を行った。広域地域会の特長を活かして、隅田川を中心として内部河川まで含めた水辺の景観について調査を重ねる。2018年度には形にしていきたい。
(岸総合計画研究所)

文京地域会

代表 野生司義光



つながりある活動

文京地域会では建築士会文京支部が連携し「文京建築会」を立ち上げ、連携を図ることで建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流と親睦を図り地域社会に貢献することを目指しています。そこでは、建築家の目を通して「文京ブランド」を可視化・顕在化し、より良い「文京らしさ」の醸成に寄与すること、会以外の建築人の方々や区民、行政、専門家とも文京区という地域を舞台にともに活動し、交流を深め、現在もさまざまな活動が展開されています。主な活動内容について下記にご紹介します。

●文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区の自然や都市景観、祭りやイベントなど区の魅力を紹介する「絵はがき」を公募し表彰しており、地域の人々とのつながりある活動の場となっています。今年度で7回を数えます。

●文京建築会ユース

「東京の銭湯とタイル絵」展、岐阜県多治見市モザイクミュージアムにて開催、他

●文京区との協定

「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって協定を結び、現在は区との情報交換会を行っています。
(野生司環境設計)

渋谷地域会

代表 南條洋雄

執筆者
幹事 牛込昇

今期初めに地域会のホームページをリニューアルしました。見やすさと使いやすさの向上により、会員・会友以外の参加者を増やすことに繋がりました。

●6月「新国立競技場と代々木体育館を巡る」：千駄ヶ谷～渋谷限界を散策し、渋谷駅周辺・区役所周辺の大変貌を目前に控えた街「渋谷」を違う面から捉えました。

●9月 渋谷区「防災フェス」：昨年同様、建築士事務所協会渋谷支部と合同でブースを構えて参加しました。

●例会「学ぶ会」と「語る会」：「学ぶ会」では、会友の専門家・メーカーによる事例紹介(色・特殊ロールスクリーン/世界最速エレベーター)、建築家賠償責任保険の紹介など、知識を習得できる会を開きました。「語る会」では、会員の設計作品(集合住宅特集)や、会友の旅のスケッチ画の紹介、私のしくじり(失敗談)など、ワインを軽く飲みながら親睦を深めました。また特別例会として「CHIT-CHATTING」を7月と1月に開催。これはプレゼンター(20人程度)が10枚の画像を200秒以内で語る会で、内容は多岐にわたり、職業を問わずいろいろな方々に参加いただき大盛況でした。1月は新年会を兼ね、楨文彦・三井所清典両顧問、長谷部健 渋谷区長らの参加を得て、こちらも大盛況でした。

当地域会では会員・会友間や地域内外を問わず親睦に努め、「楽しく役に立つ地域会」を心掛けています。(牛込昇建築設計事務所)

世田谷地域会

代表 柿崎豊治



- ・毎月第3金曜日18:00から定例会開催。
- ・区内小学校5校での空間WSおよび土会主催のWSへの支援参加を行った。空間WSの活動も11年目を迎えて、すでに1,200人以上の子供たちが参加している。例年の開催校では恒例化しつつあるなかで、地域会側の人員配置などに今後他地域会との協力などの対応策の検討が必要となっている。
- ・世田谷区民会館および区庁舎の保存再生に向けた活動を継続したが、9月の区本庁舎等整備に関するプロポーザルコンペの当選者選出を受け、地域会としての保存再生に向けた活動は停止。現庁舎の記録づくりに重心を移して動き始めている。
- ・行政との連携では世田谷区建築物安全安心協議会に参加。また、区開設の耐震化・不燃化・建替えなどの区民相談窓口対応に参加。
- ・AGへの参加企画として始まった世田谷区地域風景資産を巡るまち歩きを継続して開催し、地域のまちづくり活動団体や市民との交流を深めた。AG月間廃止後も、世田谷の景観・歴史・地勢的な特性への理解を深めながら、市民との交流を図る予定。
- ・会員交流活動：世田谷区民健康村である群馬県川場村で会員間交流の懇親会を行った。往路復路で建築・まちづくりに関連する勉強会を開催。今年は高崎市にあるアントニン・レーモンド関連の2つの建築を見学した。(アルコ建築設計事務所)

千代田地域会

代表 太田安則



千代田区は、日本を代表する官庁街、ビジネス街、古書店街、電気街、スポーツ用品や楽器に特化した商店街、大学キャンパス、庶民の職住のまち・神田など、多様な街並み景観を有しており、時代とともに変化を続けています。この現状を、将来にどう継承するかを共通認識として、公益的な活動に取り組んでいます。

- ・「景観まち歩き調査」と新しい研究テーマをジョイントして、千代田区の歴史遺産や地形を含む都市景観を、「都市の基層」というテーマで、景観要素、地形、交通などの都市インフラ、生活や歴史文化まで総合的に捉える活動を行っています。
- ・多層な視点をまとめたパネル展を「建築家の地域貢献展」として日建設計ギャラリーで8月29日から4日間開催しました。
- ・「千代田を舞台にした学生設計展2017」と「パネル展」を10月26日から3日間日本大学駿河台校舎1号館で開催し、28日に生活感溢れる路地を巡り、神田川水辺開発など今を見つめ直す「看板建築の残る神田の街並み探検」を実施しました。
- ・富士見小学校の3年生の課外授業として、「凸凹まち歩き」を10月3日に行いました。
- ・千代田区とは「災害時における応急対策活動に関する協定」に基づく連携を深める一方、会員の資質向上と情報交換のため「公開メンバーズトーク」を行っています。

(一級建築士事務所 Y・Oまち・空間コンサルタント)

中央地域会

代表 小田恵介



●教育活動 こどもワークショップ

第8回空間ワークショップ(城東地域会と共催)

(2017年10月7日、中央区立城東小学校、城東ひろば)

城東小学校は震災を受けて、先生も生徒たちも建物の耐震について関心が高い。今年は仮移転先の仮設校舎の中で、4班に分かれて、5年6年生約30名が共同で作品を構築した。校舎は震災復興小学校として1929年建設されたが、すでに再開発が決定され、超高層ビルの中に平成34年頃移転する。超高層ビル内に設置される初めての小学校となる。校舎はすでに解体された。

●地域交流活動

2012年11月より、JIA保存問題委員会との協働で、「三原橋センター」の解体に際して各種の意見交換会を重ねた。2015年に解体されたが、資料のアーカイブ化のため資料整理を進めている。

●会員交流活動

月例会は会員の事務所視察を兼ねて実施し、2017年度は8つの事務所を訪問して、会員の日々の活動の一端に触れ交流を深めた。3月には、長谷川順持デザインオフィスが入居していたビルの建替えに伴い、自ら設計を手がけたユニークな賃貸集合住宅「SHINKA」を見学。新川の亀島川沿いに再生した「アーティストと集まって住む」をテーマにしたもの。

〈東西建築サービス〉

城南地域会

代表 松本 裕



本年度は総会、例会並びに5月13日から1泊2日の合宿にて過去10年間の活動成果を振り返り、今後の活動方針について討議し、「城南散歩」、「アーバントリップ」、「ふれあいフォーラム」の活動を継続。

「城南散歩」は、岡本哲志氏をコーディネーターに迎え、6月10日に品川駅から目黒駅までの間を、11月14日に旧品川宿を青物市場から品川駅までを歩いた。

「アーバントリップ第12回」は、9月9日～10日に山梨県の街並みと建築を訪ねた。建築は宮光園、甘草屋敷、山梨市役所、清春芸術村、山梨農業大学、日本盲導犬総合センター、街並みは上条集落、旧甲州街道(白州町)等を訪ねた。

10月14日、特別企画にて「啓明学園北泉寮」を見学。旧首相官邸はもともと鍋島公爵邸として洋館、和館が建っていた。関東大震災の被災を逃れた和館が現存し、三井家を買取り、現啓明学園の地に移設した。

2月10日、「アーバントリップ」10回分の冊子を刊行。

「城南・ふれあいフォーラム」は、2月10日に東工大蔵前記念館ホールにて開催。昨年に引き続き「みちとまち」を小林正美氏の基調講演と戦後復興事業時に計画された都補助道路と住区、路面店等の問題点について下北沢、石神井公園、品川等、地域に携わる方々と対談した。

〈松本建築設計事務所〉

城北地域会

代表 鈴木和貴



地域会活動の中心は、1) 地域会誌『KNIT』の発行、2) まち歩きやセミナーの開催、3) 空間ワークショップの開催でした。

地域会誌『KNIT』の編集を通じて、城北地域を俯瞰的に捉え、各区に共通するものや固有の事象を改めて検証する機会としています。6月に『KNIT #4』を発行しました。

特集は「みどりとまちと建築と」。都市の成熟化が進む中、私たちはどのように「みどり」を「保全」していけるのか、植物の緑を守りつつ、これからの調和ある建築・まちづくりの姿を考えました。

まち歩きは、城北4区をそれぞれ巡りました。城北地域の共通する特色や課題、さらには街の将来への展開に思いを馳せた企画でした。

空間ワークショップは2回開催し、1校は隔年で継続的に開催しているものと、もう1校は他校での開催に学校関係者のお子さんがいらしたことを契機に開催を要請されたものです。地域会会員以外の方にもファシリテーターとして協力していただきました。

そして、これまでの活動も含め、地域会ホームページをアーカイブとしても活用できるよう改定しました。

〈PAX建築計画事務所〉

港地域会

代表 村上晶子



2017年度は恒例のMASセミナー(一般市民参加型セミナー/建築家クラブ)が4回の開催となりました(第24回4月8日「都心に住まう・集まってすまう〇と×」武田有左会員担当、第25回7月1日「クリエイティブ[アーツ]コア隠され領域を拓く」大倉富美雄会員担当、第26回11月18日「あの人を案内したい港区」黒木正朗会員担当、第27回3月17日「平和と建築」今井均会員担当)。

MASセミナーでは、担当会員が提示したテーマについて、数名の会員がパネリストとして登壇することで建築家によってバラエティに富んだ考え方があることを示します。パネリストの意見が発表されたところで、一般参加者よりの意見(ほぼ全員)があり、建築の文化をめぐる話で会場が一体化する状態となります。参加者の年齢層も高齢の90歳から小学生までとその幅も広いことから、極力平易な言葉を心掛ける必要もあります。懇親会でさらにディスカッションが盛り上がり、参加者の方のリピーターも多く、話を深く掘り下げることがもできます。

地域会での毎月の例会の中心は、このMASセミナーのテーマとその内容、文化としての建築について語り合うことに最も時間をさいています。

〈村上晶子アトリエ&パートナーズ〉

目黒地域会

代表 木村丈夫



2017年度は、「街かどトーク」を2回開催した。行政との連携は目黒区建築4団体懇談会の参加と目黒区景観アドバイザーの人員派遣がある。また目黒区庁舎で行われた「JIA文化財修復塾」を後援した。

●街かどトーク：第7回は「百年かかって育てた木は百年使えるモノに」と題し6月に開催。講師は目黒地域会の法人協力会員であるオークビレッジ(株)の上野英二氏。第8回は「自然に優しい暮らし方」と題し10月に開催。講師は東工大教授の安田幸一氏とドイツ出身の彦根アンドレア氏。

●防災協定：建築士会目黒支部、建築士事務所協会目黒支部、目黒区住宅リフォーム協会、JIA目黒地域会の4団体は「建築関係の専門家による防災対策、復興対策の支援に関する協定」を区と締結しており、今年度は2回の懇談会が区役所で開催された。区からは、防災対策の進捗状況、空き家の実態調査状況等説明があり、後半は全員で意見交換が行われた。

●目黒区景観アドバイザー：区内特別地域に計画される一定規模以上の建築物の事業者や設計者に対し、事前協議の段階で都市計画、建築、造園の各領域から3名の専門家が選ばれ、良き街並形成のために景観アドバイスをを行っている。JIA目黒は建築の専門家派遣でこの制度に貢献しており、16、17年度は棚橋廣夫会員が選任された。
(タオアーキテツ)

●地域会一覧(2017年度)

	県名	地域名	代表者
1	神奈川	神奈川地域会	飯田善彦
2	千葉	千葉地域会	榎本雅夫
3	埼玉	埼玉地域会	村田行庸
4	茨城	茨城地域会	河野正博
5	栃木	栃木地域会	阿久津新平
6	群馬	群馬地域会	飯井雅裕
7	山梨	山梨地域会	奥村一利
8	長野	長野地域会	山口康憲
9	新潟	新潟地域会	平原 茂
10	東京	中野地域会	小西敏正
11	〃	三多摩地域会	高田典夫
12	〃	杉並地域会	林 美樹
13	〃	新宿地域会	小倉 浩
14	〃	城東地域会	岸 成行
15	〃	文京地域会	野生司義光
16	〃	渋谷地域会	南條洋雄
17	〃	世田谷地域会	柿崎豊治
18	〃	千代田地域会	太田安則
19	〃	中央地域会	小田恵介
20	〃	城南地域会	松本 裕
21	〃	城北地域会	鈴木和貴
22	〃	港地域会	村上晶子
23	〃	目黒地域会	木村丈夫

デザイン部会

部会長 山本想太郎



「アートと建築」を部会テーマとして、活動展開しています。例年多彩なゲストを招いた公開イベントを行っています。2017年度はNPO日本デザイン協会と共催し、公開トークイベント「AI時代 デザインに何が可能か」を開催しました。話題となっているAIをテーマとして、現在と近未来のAI技術、そのデザイン分野における活用の可能性、対する人間の職能としてのデザインの行方などについて、プレゼンテーションと議論が展開されました。特定の業界を超えた広がりのある議論となり、社会の変化への対応方法がいろいろな角度から提案されました。(参加38名)

パネラー(敬称略)：渡邊政嘉(新エネルギー・産業技術総合開発機構理事)、森山明子(武蔵野美術大学)、洪恒夫(丹青社、東京大学)、山本想太郎(山本想太郎設計アトリエ、デザイン部会長)、大倉富美雄(日本デザイン協会理事長)

(山本想太郎設計アトリエ)



左より、山本想太郎、洪恒夫、森山明子(敬称略)

左より、渡邊政嘉、大倉富美雄(敬称略)

都市デザイン部会

部会長 鈴木和貴



●セミナーや見学会の開催

- 公園・緑地に新しい息吹を吹き込む
～都市緑地法等の改正(池邊このみ氏)
都市緑地法等の改正は、緑地の保全、都市の緑化、公園整備を総合的に推進することで緑豊かで魅力的なまちづくりを実現しようとするもの。その具体的な事例とともに詳細についてのセミナー。
- 倉庫空間の新しい可能性 ～イーソーコ総合研究所の取組み
「価値のある施設」の創造と倉庫建築の空間としての特性や魅力を活用する事業の同行解説による見学会。
- 北米のまちづくりのフロントランナー
～バンクーバーのまちづくりの現在(倉田直道氏)
同市のまちづくりの手法やその背景についてのセミナー。
「全米で最も住みたい街」は、都市生活の「質」を大切に
都市開発の制度のもとで進められてきた。

●部会員の活動報告

- ・ショートレクチャーとスライドによる発表(夏編・冬編)

●研修旅行

鹿児島県薩摩地方および大隅地方の建築・景観・まちづくり研修見学会。薩摩・大隅両半島の重要建築物や江戸期からの集落、修景地区の見学。
(PAX 建築計画事務所)

住宅部会

部会長 片倉隆幸



2017年度住宅部会は、建築家の職能を真正面から捉え、建築家の生き方を中心に、講演、見学会、作品発表会、さまざまな勉強会を実施する中で広く建築家のプロフェッションについて考えてきました。

省資源と温熱環境、環境保護という時代を象徴する社会的思想の流れに応じて、持続可能な住まい方への技術が生み出されている中、住み手が暮らし方の履歴を考慮した持続可能な使い方、住み続けることで本当の満足を得られるような住まい方の思想を生み出さなければならない時期に直面しており、特に毎月の住宅部会の日さまざまなテーマを設定しながら議論を重ねてきました。

対市民活動のLIXILとOZONEの住まいづくりセミナーと連動しながら、豊かな暮らしをデザインする価値を深く認識して



斎藤孝彦さん住宅部会名誉会員授与式&納会
(3月23日(金))

建築家の考えるデザインとは何か広く情報を発信、建築家の役割について意識を共有できる企画を行いました。

〈片倉隆幸建築研究室〉

メンテナンス部会

部会長 今井章晴



熊本地震から2年、現地では復旧工事を終えたマンションがある中で、未だに建て替えか解体か合意できずに混迷しているマンションやすでに解体されたマンションもある。我々は、阪神・淡路大震災、東日本大震災など、大地震のたびにマンションに生活する方々の悲惨な状況や復旧の苦労を見てきた。地震でライフラインが止まり、住民が避難し、雨漏りが始まれば、直せるはずのマンションが建て替えに向かう場合もある。解体しないためには、地震が収まればマンションに戻り生活し、速やかに混乱を収め復旧に向かうことである。その時、建築家は管理組合に寄り添い、管理組合の組織作りをアドバイスし、被災度区分判定を行い、復旧計画を提案するなどの役割が求められている。

メンテナンス部会のセミナーでは、建築や設備を含めた耐震改修や、超高層マンションの大規模修繕など、部会員からの事例報告と意見交換から改修技術の研鑽に努めてきた。マンションに100年安全で快適に暮らすには、地震が来る前に被害を想定し、改修を行うとともに、既存不適格を解消し、安全なマンションに再生することが求められ、建築家に期待される役割は大きい。



熊本地震で被災した公営住宅の杭基礎
復旧工事を視察

〈ハル建築設計〉

住宅再生部会

部会長 宇佐美 潔



セミナーと研究活動を同時進行

2017年度は座学のセミナーと現地で建築に触れる参加型セミナーを行った。加えて、既存木造住宅の耐震性能を向上させる工法・技術や環境にやさしいエコロジーについて学ぶ研究会を、セミナーと同時進行形でスタートした。講師は研究部会員各自が興味や関心を持っているテーマを取り上げて報告する持ち回りの形で、今年度は6回行った。深く掘り下げた議論は難しいが、この場が入り口となって次の研究テーマを深堀りするきっかけ作りとなった。普段疑問に思っているが理解できていないことなどをメンバーとのディスカッションによって理解を深められる機会となり意義深い会となった。

今後もこの活動を続け、住宅再生の実践も増やすことが大切と考えている。

今年度報告された内容は以下のテーマです。

- 第1回 耐震の考え方：耐震・制振・免振
- 第2回 基礎の種類と地盤
- 第3回 活断層について
- 第4回 耐震等級と住宅性能評価
- 第5回 柱と壁の直下率について
- 第6回 太陽光発電は

〈宇佐美潔建築計画工房〉

情報開発部会

部会長 天神良久



情報開発部会は法人協会会員Gグループと合同で、月に1回部会・勉強会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。講師をお呼びしたり、会員内から新情報を発表してもらったりしています。

2017年度の勉強会では、「省エネ計算ソフト SAVEシリーズの機能」「マルチツールが生み出すこれからの設計環境」「東北震災復興状況現地調査報告」「建築設計・監理業務委託契約におけるCADデータの扱いについて」「地域活性学会「公共ROAとAIの試行利用」論文」「FMで利用するICTシステム」「オフィスサーバシステムの考え方とロジック」「アセットマネジメントと不動産クラウド」等を開催。

見学会では12月に田島ルーフィング東京ショールーム(秋葉原：マイケル・グレイブス設計)を訪問して、最新の防水技術、床デジタルフィルム「オリフィ」、マルチスペースにて照明と床材のワークショップを体験しました。

新会員は随時募集中です。JIA関東甲信越支部のホームページに「勉強会」のお知らせを掲載しています。ご興味のある方はお気軽に部会・勉強会を覗いてください。

〈ケー・デー・シー／東洋大学 客員教授〉

建築交流部会

部会長 観音克平



建築交流部会は、建築を通じて建築家協会内外の相互交流をはかることにより、広く社会における建築と建築家の職能についての理解を深め、また、本会の活動を通じて、会員自らが建築を学び、楽しむことを目的として、定例会のほか、「研究会」、「見学会」、「セミナー」、「講演会」など、さまざまな活動を行っています。

2017年度は、毎月の「近代洋風建築研究会」(建築家クラブ)や臨機の「現代建築探訪」に加えて、秋には「街並みと建築の見学会」(倉敷・岡山・高梁ほか)も実施しました。これは、4年にわたり続けてきた「前川國男の思想と設計監理の勉強会」に続く活動で、岡山出身の建築家や地元のJIA会員とも交流、情報交換し、深くかつ多面的に建築を学びました。またこの機会をとらえて、我々の活動の成果物である書籍『建築家のメモ』(I, II)の活用も図ることができました。

現在、2018年度における魅力的な展開に向け、計画を練り、調整を行っています。今年度は、恒例の建築ツアーに加えて、新たに「写真コンクール」、「ワイン・セミナー」を開催する予定です。

今後も、JIA会員、非会員にかかわらず、広く交流の輪を広げる活動を目指しています。皆さま方の積極的なご参加をお待ちしております。
(アトリエ・アーキポスト)

建築家写真倶楽部

部会長 藤本幸充



昨年10月18日から20日まで、青森県弘前市と岩手県盛岡市およびその周辺の建築文化遺産を訪ね撮影会を行った。

弘前市には歴史的建造物や文化財が数多くあり「趣のある建物」指定制度を設ける。その多くを市の魅力として生かしている。明治大正期の建築物もさることながら、前川國男の初期から晩年期の作品群にも触れた。

また岩手県雫石には明治から昭和にかけての建物群を有する小岩井農場があり、21棟が国指定重要文化財になっている。文化財であるが現役で稼働しており、今後も継続使用するという、その木造のタフネスを描写する。

盛岡でも文化財級現役の建物は多いが、佐藤写真館の内部を拝見。デジタルでバシャバシャ撮る時代にあつて、1枚を撮るのに手間暇かける写真の記念性について振り返る機会であった。

(鎌倉設計工房)



小岩井農場



佐藤写真館

再生部会

部会長 柳沢伸也



再生部会は、歴史的に価値ある建物を長く使い続けていくために、毎月定例会を行っています。関東甲信越支部所属ですが、全国的な組織として活動しています。

2017年度は、これまで東京弁護士会歴史的建造物部会と共同で研究してきた「既存建物を使い続けるための諸制度見直し研究」の内容について、JIA群馬建築展でのセミナーや、建築基本法制定準備会(代表：神田順先生)での講演会などを行いました。また定例会では、熊本地震の被害報告や、横浜市のマンション杭問題など、最新のトピックや話題について専門家を招いて研究しています。さらに、実際に解体の危機に瀕する建物の実測調査や見学会、および保存再生に成功した事例見学会なども行っています。2017年度は、宇都宮市大谷町の板蔵の実測調査を行い、旧簡易保険局庁舎、上野の町家再生の見学なども行いました。特に、実測調査においては、所有者の方々から建築専門家ならではの図面作成能力と、保存に向けた技術的指針について称賛いただき、実測調査を契機に保存の気運が高まりました。

2018年度は新部会長の体制のもと、建築を使い続けていくことの重要性を社会へ訴え、より豊かで美しく安全な都市と建築の具現化に貢献することを目的に、引き続きこうした研究と現場活動を併せて活動していきたいと考えています。

(やなぎさわ建築設計室)

ミケランジェロ会

部会長 阿部一尋



- ・5月9日、上野恩賜公園でスケッチ会を開催。西洋美術館(ル・コルビュジエ設計)、東京文化会館・東京都美術館(前川國男設計)、不忍池、上野動物園等を各自がスケッチした。
- ・6月24日から7月8日まで銀座プロムナード(地下鉄銀座駅と東銀座駅間の地下通路)にて展覧会を開催。会場が2016年の新宿から銀座へと変わった。水彩、油彩、写真、エッチング、鉛筆画、書等、14名52点を展示した。
- ・11月18日、横浜山手にてスケッチ会を開催。西洋館のスケッチを目標にしていたが、元町公園内のジェラルド水屋敷を見つけてスケッチした。1870年頃フランス人実業家ジェラルドが船舶給水業と西洋瓦製造を行った跡地であった。

ミケランジェロ会では、年2回のスケッチ会と1回の展覧会を実施しています。JIA会員に限らず、元会員、会員外の方の参加も受け付けています。興味のある方はぜひご参加下さい。お問い合わせはJIA事務局へお願いします。

(一級建築士事務所 みらい)

金曜の会

部会長 日高敏郎



2017年度は毎月1回計12回の企画を実施しました。今年で3回目となる連続講座は建築家楨文彦氏を招聘して、オープンスペースの重要性に焦点をあてた講演や、参加者から寄せられた5つの質問に楨氏が答える企画など全3回を行い、好評で毎回100人近い参加をいただきました。



楨文彦氏の連続講座

またJIA会員の発表の場としてJIA建築大賞やJIA優秀建築賞を授賞した設計者に語っていただく機会を設けました。これはJIAとしても重要な取り組みであると思いますので、今後も継続していきたいと考えています。年が明けて今年1月には建築家芦原義信生誕100年を記念してご長男の前JIA会長芦原太郎氏にご登壇いただきました。9月の「松本哲夫の出版記念会」は建築会館との共催で行い、建築会館との共同の取り組みを建築家クラブの活用促進のため、ぜひ継続したいと考えています。

一方で、これらの貴重な講演の記録を残すことが重要であり、我々の責任でもあると考えています。今年から参加費用を工面してビデオ撮影をプロに外注するようにしましたが、文字情報の整理がまだまだ不十分であり、来期以降この点に重点をおいた取り組みを深めていきたいと考えています。

〈日高敏郎建築設計事務所〉

学芸祭部会

部会長 大川宗治



学芸祭部会は、協力会員も含めたJIA会員同士の交流という目的のもとに活動しています。2017年度は、有志のメンバーで以下のような活動を行いました。(参加者の敬称略)

- ・「新年の集い」において、ピアノによるBGM演奏。(渋田一彦)
 - ・住宅部会主催アーキテツガーデンのパーティーでの演奏。(URBAND:小林正美、倉田直道、吉田慎吾、彦根明、大川宗治)
 - ・JIA建築家大会四国2017にて、バンド大会に関東甲信越代表として出場しました。(すご〜いバンド:筒井専務理事、浅尾悦子、上垣内伸一、彦根明、大川宗治)
 - ・建築家会館主催のクリスマスナイトにて演奏。(すご〜いバンド:筒井専務理事、浅尾悦子、上垣内伸一、彦根明、大川宗治)(南條ユニット:南條洋雄、南條美穂)(URBAND:南條洋雄、小林正美、倉田直道、吉田慎吾、彦根明、大川宗治)(ダンス:鈴木利美)
- 2018年度の関東甲信越主催の建築家大会とアルカジア東京大会に向けて、より多くの会員同士が交流できるように配慮した活動をしていきたいと思っています。〈一級建築士事務所 OM-1〉



クリスマスナイト

●部会一覧 (2017年度)

デザイン部会	部会長：山本想太郎
都市デザイン部会	部会長：鈴木和貴
住宅部会	部会長：片倉隆幸
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民住宅講座WG ・暮らし・住まい・環境WG ・規約検討WG ・安全・防災WG ・木構造WG ・住宅というものづくりWG
メンテナンス部会	部会長：今井章晴
住宅再生部会	部会長：宇佐美 潔
情報開発部会	部会長：天神良久
建築交流部会	部会長：観音克平
建築家写真倶楽部	部会長：藤本幸充
再生部会	部会長：柳沢伸也
ミケランジェロ会	部会長：阿部一尋
金曜の会	部会長：日高敏郎
学芸祭部会	部会長：大川宗治

2018年度 活動方針



関東甲信越支部
支部長
藤沼 傑

2018年度はまずは9月に同時開催されるアルカジア東京大会2018と建築家大会2018東京(全国大会)を成功させることです。この2年間準備を進めてきましたが、全国大会とは何か、さらにJIAは今後どうあるべきかという根本から協議を重ねてきました。

昨年JIAは創立30周年でしたが、創立時の会員は6,700人、現在は3,700人弱ですので、次世代の会員の育成を第一の目的としました。そのため、彼らが一番苦慮している公共工事の実績づくりにJIAが積極的に支援していくことにしました。幸い、国土交通省も公共建築の設計者を適切に選定するため、JIAをはじめとした建築関連団体が発注者支援することを期待しております。

具体的には、コンペ・プロボ方式による設計者選定を公共工事において増やしていくことです。今回は、都内の地域会が区と密接な関係を構築してきた関係で、規模は小さいですが、実現する公共工事でコンペを実施することになりました。しかも、参加できる一級建築士の実績は基本的に問わない、間口の広いコンペです。今回は全国大会に照準を合わせてコンペを実施しますが、この活動を大会後もしっかりと継続させていきます。

もうひとつ重要な活動は、行政に対する具体的な政策提案です。東京三会建築会議は保育所の採光規定緩和を実現しました。他会と連携し、このような大きな政策提言を継続的に実現していきます。

2017年の活動を概観しますと、支部全体で約200プログラムを展開しました。これらプログラムの多くは研鑽活動でしたが、上記のような公共に対する活動を目に見える形で実現していくことで、次世代の人がJIAに魅力を感じ、活動に参加し始めることを期待しています。

2018年の初めには、支部内の多くの活動を効率的に社会に発信するために支部ホームページを刷新しました。この新HPを見れば、常に各活動が概観でき、各活動の相互の連携ができる。そうなるためにも、皆様の予定と活動を随時アップしていただくよう、お願いします。

支部内の情報連携を強化するため、今年は正副支部長

の連携を定例化し、常任幹事に議題を早めに上げていきます。その後、委員長会議と地域サミットを開催し、各委員会や地域会と十分に協議をしたうえで、役員会で審議するという形を明確にしていきます。

この2年間、これまでJIA活動をしてきた先輩方のパッションをどのように維持しながら次世代へつなげていくかを議論してきました。結論としては、当たり前のことですが、先輩方のパッションが次世代の活動の基礎となるということです。今回の全国大会で実現する公共工事のコンペも、地域会の10年以上にわたる地道な活動により、行政から信頼を得て実現するものです。JIAは営利組織のように、組織を常に変える、つまり古いものを整理し新しいものを育てる団体ではありません。むしろ、各世代の活動を年輪のように重ねていく、植物的な団体であることがよく理解できました。営利組織のように動物的に俊敏に動くのではなく、大地にしっかりと根を張った大樹として育てていく組織です。大樹として育つには、環境の変化に対して内部ではゲノムレベルで大きく変化していることが最近の植物研究で明らかになっています。

建築士の基礎的環境は大きく変化しています。告示15号の改正方針が今年出てきます。国土交通省はさらに建築士の試験制度や建築基準法についても検討を進めているようです。このような環境の変化に支部としてもしっかりとした対応が必要です。

以上をまとめますと、2017年度と重複する内容が多いですが、今年度支部活動主要方針は下記となります。

- 他会と共に社会に発信する
- 若手が活躍する場を提供する
- 支部内の情報連携を強化する
- 委員会や東京の地域会負担を整理する

このように活動を重ねていくためには、しっかりとした財源の確保も必要です。JIAの活動に協力している皆様にも、より積極的に我々の活動にご参加していただきたく、本年度もよろしく申し上げます。

2018年度 関東甲信越支部総会の報告



総務委員長
榎本雅夫

5月18日に開催された通常総会の概要をご報告します。

開会に先立ち、出席正会員67名・委任状出席者535名、合計出席者602名。支部規約第9条3により正会員数1,749名の10分の1以上であることから本総会が成立する旨、浅尾事務局長より報告された。

■議長団および議事録署名人の選出

藤沼傑支部長のご挨拶後、議長に進藤憲治幹事長、副議長に櫻井修常任幹事、議事録署名人に近藤昇、風戸宏孝両会員の2名が指名され、議事が開始された。

■第1号議案 2017年度事業報告承認の件

慶野正司副支部長より報告があり、その後採決を行い、賛成多数で承認された。

■第2号議案 2017年度収支決算承認の件

浅尾事務局長より報告があった。赤字予算に対し、決算は黒字となった。予算との主な差異として、収入についてはその他会費、助成金、雑収益が増大。支部運営費、支部追加運営費、協賛金が減少した。支出については印刷製本費が減少(『Bulletin』の季刊化)、広報費が増大(HPの改訂費用)した。雑収益の増大は、学生デザインコンクールの過去の協賛金収入を組み入れたためである。もし当該処理がなければ赤字決算だったことから、厳しい収支状況にあるとの説明があった。その後、東條隆郎、赤羽吉人両監査を代表し、東條監査から監査報告があった後採決を行い、賛成多数で承認された。

■第3号議案 支部役員選出規約改正の件

藤沼支部長より、文言の整理、および選挙管理委員会の委員数を本部に準じて6名以上8名以下と変更することについて説明があり、その後採決を行い、賛成多数で承認された。

■第4号議案 支部役員及び支部監査選任の件

浅尾事務局長より、幹事15名監査1名を選任する件について説明があり、その後採決を行い、賛成多数で承認された。

■報告事項1 2018年度活動方針について

報告事項1、2について藤沼支部長より説明があった。

現在の多彩な活動を、会員の減少傾向下でどのように維持するのか議論してきた。活動を縮小することなく発展させるという共通認識の下で考えていきたい。前年度2委員会の活動を整理した。改めてアーキテックガーデンの実績を考えて新たな活動を展開したい。

今年度もこれまでの活動方針を踏襲する。

- **社会に発信するJIA**：これまで研鑽活動が主であったが、今後は社会に向けた発信に転換する。
- **JIA会員へのサービス向上**：次世代を育てるということを大きなミッションとしたい。まちづくりや海外活動等、新しい分野へのリスクに対し、保険制度の内容がより会員サービスに資するよう改善を図りたい。
- **支部・地域会を中心とした活動の推進と連携**：東京の地域会をどうするのか経緯を踏まえて改めて議論し、具体的な行動を起こす。東京都や首都圏を対象とした広域活動をどのような組織で対応していくのか検討したい。
- **持続可能な会の運営**：活動収入の強化を図る。協力会員と日常的に協力し合える体制をつくりたい。

■報告事項2 2018年度収支予算について

今年度、黒字予算を組んでいる。各地域会に配分している地域活動運営費については前年度から変えるつもりはない。広報費を減額しているが、広報は活動を周知させ社会を動かしていくためには重要であり、充実させてゆきたい。全体として前年度と同等、もしくはそれ以上の活動を展開できる予算は確保できていると考えている。

議長より、以上をもって総会の議案等がすべて終了した旨発言があり、支部総会が閉会となった。

総会終了後、「ARCASIA東京大会+JIA建築家大会東京最新情報」と題して、会員集会がこれまでにないと思われる大勢の参加者が集う中で開催された。藤沼支部長、高階澄人副支部長、相坂研介建築家大会実行委員会企画部会長が登壇し、各大会の目的から具体的なプログラム紹介に至るまで、興味深い説明があった。JIA交換研修生としてタイで活動された方々へのインタビューもあり、JIAの意義について考えるひとときもなった。

第16回 JIA 関東甲信越支部 大学院修士設計展 2018

展覧会：2018年3月7日～9日
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階



大学院修士設計展
実行委員長
佐藤光彦

今年も3月に「大学院修士設計展」を開催し、今回でこの企画も16回目を迎えることができました。従来この企画は、関東甲信越地区の大学院より優秀な修士設計作品を2点まで推薦していただき、Web上に掲載するというものでしたが、第11回よりWeb展も継続しつつ、修士設計のパネルと模型を実際に展示する展覧会を開催しています。さらに建築家の単独審査による審査、講評を行い、優秀な学生と作品を顕彰することとなりました。これまで審査員には楨文彦氏、伊東豊雄氏、坂本一成氏、富永譲氏、長谷川逸子氏を迎え、今回は難波和彦氏にお願いしました。第12回からは、参加作品および審査、講評、シンポジウム内容、各大学の研究室紹介を収めた作品集が、(株)総合資格の協賛を得て刊行されています。このように、本展覧会はここ数年で大きな変貌を遂げ、参加校も増加傾向にあり、関東甲信越地区で修士設計を行っている大学のほぼすべてから出展されています。

他の修士設計展と異なるのは、出展作品が自薦ではなく各大学からの推薦であることと、大学院で修士設計の指導を行っている委員が主体となって運営していることにあります。大学から推薦されることにより、各大学が修士設計をどのように指導しているかを知ることができます。修士設計には、卒業設計より精度の高いリサーチに基づいた研究と、そこから導き出される仮説の立案およびその検証を経たデザインの提案が求められますが、大学によって方針の違いはあります。かつては、大学院に修士設計というものは無く、いまだに論文のみという

大学もあります。修士設計を論文に相当する修了要件としてどのように位置づけ評価するか、各大学で試行錯誤してきた時期もあります。それゆえ、何をもって修士設計に足る内容となるのか戸惑う学生たちも多いように思います。この展覧会では、「修士設計」のあり方を問い続け、これに立ち向かう学生たちの道しるべとなることも意図しています。

次年度も、これまで以上に事前周知を充分に行い、本展覧会が学生、大学教員、建築関係者、市民を結びつける活動に発展することで大学院での指導に少しでも寄与できればと考えています。会場設営に当たった実行委員および学生たち、会場を提供していただいた芝浦工業大学、協賛いただいた(株)総合資格の皆様ほか関係者の協力には、この場を借りて御礼申し上げます。

●第16回 大学院修士設計展2018 概要

展覧会：2018年3月7日～9日
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス
審査会：2018年3月8日
審査員：難波和彦
参加大学：24大学30専攻 出展数：41作品
Web展：<http://www.jia-kanto.org/shushiten/>

●大学院修士設計展2018実行委員

佐藤光彦(日本大学理工学部、委員長)
谷口大造(芝浦工業大学、副委員長)
赤松佳珠子(法政大学)
今村創平(千葉工業大学)
佐藤誠司(バハティー級建築士事務所)
鈴木弘樹(千葉大学)
安原幹(東京理科大学)

写真提供：(株)総合資格



審査会



展示会場

第12回 JIA 北関東甲信越 学生課題設計コンクール 2018

2018年3月23日(金) 千葉学(審査委員長)特別講演会
2018年3月24日(土) コンクール審査会
会場：前橋工科大学



学生課題設計
コンクール 2018
実行委員長
中野一敏

今年も3月に、第12回JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール2018と第21回JIA群馬クラブ学生卒業設計コンクール2018が開催されました。出展した学生たちをはじめ、指導された各学校の教職員の方々や会場構成にあたった前橋工科大学の学生の方々、そして会場を提供して下さり多方面からご協力いただいた前橋工科大学の関係各位に対し厚く御礼を申し上げます。

JIA北関東甲信越学生課題設計コンクールは、北関東甲信越(山梨・長野・群馬・新潟・栃木・茨城)の6県の大学・専門学校・工業高校の建築設計の住宅系授業課題に対する作品を対象に開催しています。卒業設計とは異なり最終学年以外の学生が集まるため、学生たちは他の学校の建築学生から刺激を受けたり、また就職や進学に当コンクールでの評価を活用することも期待されます。併催するJIA群馬クラブ学生卒業設計コンクールは、群馬県内の建築系大学の卒業設計コンクールとして開催しており、優秀な作品は全国学生卒業設計コンクールへと進みます。

当コンクールは今年で第12回を迎え、本年度は学生や若い建築設計者などに絶大な人気がある千葉学氏が快く審査委員長を引き受けてくださいました。コンクール前日の3月23日には、千葉学氏による特別講演「人の集まり方をデザインする」を開催し、学生や建築関係者が大勢集まり熱い講演が行われました。翌3月24日のコンクールは、千葉審査委員長に加え、相坂研介常任幹事と北関東甲信越6県から1名ずつを審査員とし、公開で審査を行いました。本年度は、各地域会審査員による地域会

賞の評価軸を事前に実行委員会で検討しました。受賞した学生に評価した点を分かりやすく説明すること、多様な評価軸で学生の作品を評価することを試みました。審査は、大講義室のスクリーンに画像を映しながらの学生プレゼンテーションと、模型を前にした審査員と学生による質疑応答が行われた後、審査員の投票により各賞を決定しました。得票数が割れると審査員による応援演説が行われるなど、公開の審査では闊達な議論が交わされました。

学生課題設計コンクールは、学年も課題内容も異なる作品の中から各賞を決定するコンクールであり、敷地の環境の多様性や、各学校の指導内容の多様性もあり、大変に評価基準が難しく議論が尽きることがありません。

金賞・銀賞・銅賞・支部長賞・各地域会賞に選出された学生も、惜しくも漏れた学生も、自らの作品が公開で審査の俎上にのり、意見やアドバイスを受けたことは貴重な経験になったと思います。今後もさらに、多くの作品に講評の時間が与えられる審査会を目指したいという想いが実行委員会内では共有されています。

表彰式では、千葉審査委員長による審査員長特別賞のサプライズ発表も行われました。その後のサンドウィッチパーティーでは、千葉審査委員長を囲んでの写真撮影や学生同士が交流する姿も見られ、和やかな雰囲気の中で盛況の内にコンクールを終了することができました。

来年もより充実したコンクールとなるよう、実行委員一同精一杯尽くすつもりです。今後も関係各位のよりいっそうのご協力をお願い申し上げます。



学生プレゼンと審査員質疑



大講義室での公開審査

パブリックとプライベートが交錯する空間

—スペイン・シンガポールの事例から、
都市の小さなスペースの可能性を考える—



佐野哲史

10年前から設計活動の傍らで、日本で教鞭をとる外国人の建築研究者のお手伝いをしています。その関係で、さまざまな国から日本を訪れる建築家や研究者の方々とお会いする機会があるのですが、彼らは自国に限らず国際的に活動していて、世界中のさまざまな都市で開催されるシンポジウムやワークショップに参加しています。そういった方々と話をすると、世界各国の多種多様な価値観に触れることになりそうですが、実は(私の場合は)そういうわけでもありません。ある種の共通した興味や価値観をもっていることが多いのです。



世界各地で開催される同種のトピックのシンポジウム

あるひとりの建築研究者を訪ねて日本にやって来るのですから、それは当然といえば当然なのですが、気候も文化も全く異なる国々に同じ興味をもっている研究者がいて、彼らがどこかでつながって同じように日本を訪れてくるというのは興味深いことだと常々思っています。さまざまな国の人々が集うという状況はまさに「国際的」といえると思いますが、そうだとすれば「国際的」というのは、世界中に分散するローカルな「村」のような小さなコミュニティが密接につながり合っている状態のことを指しているともいえそうな気がします。

そういうわけで、ある特定のテーマ・トピックについての国際的なコミュニティがあり、世界の各地で同じように議論されているということなのですが、私が出会う外国人研究者や学生は、日本における木密地域の住民の生活があふれ出しているような路地や、都市の一角に残された小さな個人店が密集するエリアに興味をもつ場合が多いように思います。彼らとよく話をするとトピックのひとつに、PublicとPrivateという概念についての議論があり、日本(だけでなくアジア諸国にはそういう国が

多そうです)には西洋で言うところのPublic Spaceがない、一方で、プライベートとパブリックが曖昧に交錯するような空間が多いという意見をよく聞きます。小さくてプライベートな空間が拡張しパブリックな空間につながっていくような空間性に着目しているようです。

さて、こういったトピックに着目する海外の状況はどうなのでしょう。近年出掛けた海外の都市の状況・建築家の状況について、日本との類似性の観点から2つの例をご紹介しますと思います。

■スペインの若手建築家の状況

昨年の冬に、東京でスペイン(マドリッド)の建築家展、マドリッドで東京の建築家展を行う展覧会に参加しました。日本に滞在して研究活動を行っていたスペイン人の建築家がキュレーションを行い、JIA埼玉の協力のもとに行った東京とマドリッドの若手建築家の展覧会だったのですが、マドリッドの建築家展を行う会場となったのが住宅地の一角で、筆者が設計した小さな集合住宅の1階ピロティでした。外国人研究者が着目するプライベートとパブリックが曖昧に交錯するような空間をそのまま展示空間とする意図だということだったのですが、スペインの建築家展を行うのに住宅地の一角でよいのかと当初は少し戸惑いました。しかし実際にスペインの建築家たちの展示作品を見ると、建具や家具スケールのものを展開したような、プライベートな空間スケールとマッチする作品が数多くあり、住宅地で開催した意図も納得できま



日本の住宅地の一角で開催されたスペイン建築家展

©Ookura Hideki

した。

スペインは2000年代には建設ラッシュがあったものの、2008年の世界金融危機でバブルが崩壊し、近年のスペイン若手建築家の作品には小さなスケールに着目した建築も多いということでした。また、その後マドリッドを訪れて、出展したマドリッドの建築家たちと会ってみると、その状況にアンビバレントな感情もありながらも設計活動に取り組む様なども日本の若手建築家と共通する状況があると感じられました。日本でもスペインでも、大きな建築を建てるより、質の高い小さなスペースをどう生み出していくのかが問われるようになってきているように感じます。

■アジアのパブリックスペース

今年の初めには国際ワークショップでシンガポールを訪れました。シンガポールの大多数の人々は国が建設した集合住宅に住んでいるらしいのですが、その集合住宅の多くが同じ形式をとっています。夏の強い陽射しやスコールのため、1階がピロティになっており、建物同士は屋根付きの歩廊で結ばれています。ピロティ形式の建物が何棟も連続しているため、どこまでも視線が抜けていくような都市空間になっていて、なかなか見応えがありました。ル・コルビュジェのピロティが都市全体に展開されたような風景です。



シンガポールの集合住宅のグランドレベル

ピロティは風通しも良く、住民に使われそうな空間なのですが、全くといってよほど使われていません。一方、上階の共用廊下に上がってみると、そこには住民の家具や植栽があふれ出し、活用されている様子が見えました。現地では出会った建築専門家は、全く活用されていないピロティ空間は問題だと話していましたが、それはそこでのさまざまな行為が禁止されているからなのだそうです。ピロティに設置された屋外テーブルや椅子も、全て地面に固定され、住民が自由に動かしたりする



シンガポールの集合住宅の共用廊下

ことはできないようになっていました。この種の制限された空間というのは、現代の日本でも公園や駅前広場と同じ状況が見受けられます。Publicの概念が希薄なアジア都市では、公共性のある空間において人々の営みを規制する方向になりがちなのでしょうか。こういった状況をみると、日本などのアジアの都市においては西洋型のパブリックスペースとは違ったかたちの空間をつくっていく必要があるように感じます。外国人研究者たちが言うように、日本にはPublicという概念がないとするならば、西洋と同じようなパブリックスペースをつくったところで(使われないにしろ規制されるにしろ)機能しないのであれば意味がありません。

アジアやオセアニアでは新しく作られた都市が数多く存在し、そこでは大きな都市計画(ゾーニング)によって大きくつくられた建築群が立ち並んでいます。結果として、人々の実際の活動がないがしろにされている都市空間が生まれてしまっている場合も少なくありません。日本でも近年は建設ラッシュの様相で、大きな建築が建設されていますが、個々の人間の小さな活動を受け入れることのできる都市になっていくのかどうか疑問が残ります。日本を訪れる外国人研究者が着目するように、小さなパブリック/プライベート空間にもっと着目すべきなのかもしれません。

佐野 哲史 (さの さとし)

Eureka 共同主宰

- 2003 早稲田大学理工学部建築学科卒業
- 2004 Renzo Piano Building Workshop (仏)
- 2006 早稲田大学大学院修士課程修了
- 2006-09 隈研吾建築都市設計事務所
- 2009 Eureka 共同設立
- 2009- 慶應義塾大学ラドヴィッチ研究室 Visiting Fellow
- 2016- 慶應義塾大学大学院後期博士課程

tupera tupera かめやまたつや 亀山達矢氏に聞く
 子ども心で絵本を楽しむ

tupera tupera (ツペラ ツペラ) は亀山達矢さんと中川敦子さんのご夫婦によるアート制作ユニット。絵本やイラストをはじめ、工作やワークショップ、テレビ番組制作など幅広く活躍されています。とくに絵本はカラフルな色づかいとユーモアに溢れた内容で、子どもだけでなく大人にも大変人気があります。今回は、亀山さんに絵本制作への想いや裏話などを話していただきました。



— 絵本を作るようになったきっかけを教えてください。

美大を卒業した後、絵を描いたりして1人で創作活動をしていくつもりで、たまに tupera tupera というユニットを2人で組んで、クッションやTシャツなどの服飾雑貨を作っていました。作品を気に入ってくれたお客さんに「絵本は作らないの?」と言われることもありましたが、物語を考えなければ絵本はできないという勝手なイメージがあったので、当時は絵本を作る気はまったくありませんでした。

そんな活動を2年くらい続けていたら、3つの大きなきっかけが重なりました。ひとつは、洋書の絵本との出会い。デザイナーが作った絵本などを知る機会があり、置いてあるだけでとてもかっこいいのです。ふたつ目は五味太郎さんとの出会い。五味さんとはある忘年会で隣になったのをきっかけに親しくなりました。もちろん五味さんの名前は知っていましたが、実はそれまで五味さんの絵本を読んだことがなくて…。五味さん以外の絵本もほとんど知りませんでした。その時初めて物語ではない絵本があることを知り、日本の絵本にもこんなものがあったのかと驚きました。それから、チェコの絵本作家クヴィエタ・パツォウスカの絵本との出会い。彼女の絵は赤と黒の使い方とデザイン性が抜群で、一気に心を掴まれました。

その3つの出会いが同時期にあって、絵本って面白いなと思うようになり、自分も作りたくなりました。

最初は『木がずらり』*という絵本を自費出版で1,000部作りました。当時東京の三鷹に住んでいて、自宅近くの東八道路を歩くと遠くの方にさまざまな形の木が並んでいるのが見えました。そこからイメージして、本を広げると並木道が広がる、ジャバラ状の立てて飾れる絵本にしました。 *『木がずらり』は現在はブロンズ新社から発売中

— ほとんどの絵本が貼り絵でできているんですね。

もともと手作業でその場でできていくのが好きなんです。それまで布でパッチワークしていたのを紙に持ち替えただけ。でも貼り絵でもすべて同じ技法を用いている

のではなく、1冊ずつ本のアイデアをうまく表現できるように作る技法を変えています。たとえば『やさいさん』(学研プラス刊)の場合、野菜の質感を絵の具で表現しました。大根つぼい紙をローラーで作ったり、玉ねぎの薄皮はペインティングナイフでとか。『おぼけだじょ』(学研プラス刊)では、透明のシートを買ってきて、カラートレーシングペーパーを後ろの光源に置いてみて影絵で作っています。なので15年間絵本制作をしていますが、常に新鮮な気持ちでいられるし、まだまだいろいろな表現にチャレンジできると思っています。

— 作品のアイデアはどのように生まれるのでしょうか。

アイデアは僕が出すことが多いのですが、アイデアが出た瞬間が一番興奮していて、その後の過程は手作業が好きと言いつつも正直しんどい時もあり、早くできないかなといつも思います(笑)。僕たちの絵本は自分たちが単純に面白いと思うものをかたちにしていて、作品にとくにメッセージ性はありません。僕は子どもをびっくりさせたりするのが好きで、アイデアもそんないたずら心から生まれます。

『しろくまのパンツ』(ブロンズ新社刊)は、まず絵本にパンツを履かせてみたいと思い、表紙にパンツの帯を履かせることを考えました。絵本を開くにはパンツを脱がさなくてはならないので、しろくまのパンツがなくなったところから物語を始めることにしました。

子どもからヒントをもらうこともあります。工作の連



tupera tupera 作の絵本。これまでに30冊以上の絵本を制作しています。現在、うらわ美術館で「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展」を開催中(8/31まで)

載をしていた頃、娘がまだ2歳くらいで、財布からカードを抜いて遊んでいました。抜くのが楽しいだったらと、家にあるクッキーの箱を茶色く塗って畑にして、野菜を引き抜くような手作りおもちゃにしました。それが後に『やさいさん』『くだものさん』(学研プラス刊)などのめくりながら読むフリップブックのヒントになっています。

—『パンダ銭湯』では大人も衝撃の、パンダの秘密が暴かれています(笑)。

『パンダ銭湯』(絵本館刊)は、家でテレビを見ていたらパンダが出ていて、ずっと見ていたら目の部分がティアドロップ型のサングラスに見えてきて…。パンダってうさん臭いぞ！ほんとにかわいいのか！と。しかも黒いチビTを着てスパッツをはいているようにも見えてきて、それならこれを脱がして秘密を暴いてやろうと、パンダが銭湯に行くストーリーが生まれました。この時は貼り絵でパンダを96体作らなくてはならなくて本当に大変でした。もうしばらくパンダは作りたくありません(笑)。

—こちらの想像を超えたストーリー展開も魅力です。

くだらなかつたりバカバカしいのが大事だと思うんです。笑ったりいたずらできるたびに平和だと思います。

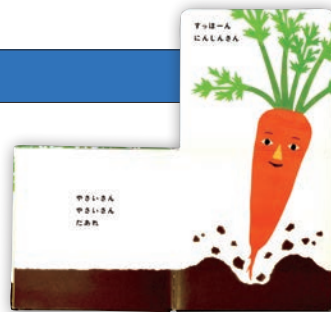
絵本でいいんですよ。僕は日々子どものために活動しているわけではありません。子どもも大人もすべての人に共通していることは何かわかりますか？それはみんな子どもを経験してきているということ。年を重ねて大人になってもみんな内側に子どもがずっとあって、僕はその子ども心も含めて作品作りをしていると思っています。

だから絵本は決して子どもがテーマなわけではなくて、すべての人の子どもの部分がテーマなんです。絵本はコミュニケーションツールだから、大人が子どもに読んだり、子どもが大人に読んだり、大人が大人の子どもの心に読んでもいいはず。誰もが絵本の面白さを楽しんだ方がいいと思うし、大人にこそ絵本を楽しんでもらいたいです。

それから、僕らの絵本はお父さんがとても読みやすいようですね。だいたい近年の作品のいくつかは、中学生男子のような発想とノリで作っていたりもしていますから。『うんこしりとり』(白泉社刊)とか、昨年出したパラパラマンガ『うーん、うん』(青幻舎刊)でもうんこが出てきたり(笑)。それから文字数が少なくてシンプルだからすぐ読めてしまう。シンプルだからこそ、読み手がその余白をちゃんと埋めることができると思っています。

例えば、『やさいさん』で野菜を土から引っっこ抜く場面で「すっぽーん」という台詞があります。「すっぽーん」

『やさいさん』(学研プラス刊)
「やさいさん やさいさん
だあれ」「すっぽーん」と言い
ながらページをめくって野菜
を引っっこ抜きます。



だけだとその人なりの「すっぽーん」が見られる。それがお父さんに委ねられるので面白いですね。委ねられるというのは、読み手が自分を入れることができるのですごく楽しいし、読み手も楽なんです。

—ワークショップも頻繁に行っているそうですね。

僕は工作などのワークショップによく出掛けています。ワークショップでは見学者はいないほうがいいと思っています。だから子どもと来ているお母さんに、まずお母さんがやりましようと話したりもします。ワークショップに付いてきて何もやらずにいるお父さんがいたら、そんなお父さんにこそ楽しいものを作ってもらいたい。お父さんが楽しそうだったかっこいいものを作るとお母さんも子どもも嬉しくて良い雰囲気になる。キーポイントはお父さんであることも多いです。お父さんの子ども心をいかに引き出すか、そういう想いも込めています。

—最後に、建築家に伝えたいことはありますか。

今までの作品は僕たちが勝手に作ってきたわけではなくて、毎回いろいろな人と一緒に考えながら化学反応してきました。だから出版社や編集者、印刷所、製本所、読者もみんな大事で、絵本作りは一冊ずつ本当に面白いです。僕は一緒に楽しめる人、興味のある人だけでコミュニティが広がれば十分で、そういう人たちと組んで集まってしっかりと楽しむことが大事だと思っています。ものづくりは関わるすべての人が楽しんでいるのがいい。だからこれからも本当に共感してくれる人を大切に作品作りを楽しみたいと思います。

—貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

インタビュー：2018年2月22日

セルリアンタワー東急ホテル ガーデンラウンジ「坐忘」
聞き手：有泉絵美・中山 薫(『Bulletin』編集WG)

PROFILE

亀山 達矢 (かめやま たつや)

tupera tupera

1976年三重県生まれ、京都府在住。武蔵野美術大学油絵学科版画専攻卒業。2002年から中川敦子とともにtupera tuperaとして活動。絵本やイラストをはじめ、工作、ワークショップ、舞台美術、空間デザイン、アニメーション、雑貨など、さまざまな分野で幅広く活動している。絵本に『かおノート』『やさいさん』『うんこしりとり』『パンダ銭湯』『しろくまのパンツ』など多数。NHK Eテレの工作番組「ノージーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。

抱負を語る

らんここうしん 「覧古考新」



岡 由雨子

フランスで修学し、帰国後在籍した磯崎新アトリエでは主に海外のプロジェクトに携わってきたため、独立した際には建築界にまったく人脈がない状態でした。

四苦八苦、ゼロから人脈を作る中で、幸運にも事務所の転居先建物の上階にJIA神奈川地域会事務局が入っていたことが、JIAに加入するきっかけとなりました。現在は地域会の広報委員としてJIAの活動に参加し、多くの先輩方から学ぶことができました。

地域会事務局と私の事務所が入居する馬車道大津ビルは、1936年竣工、外壁タイルの幾何学模様が美しいアール・デコ様式の建物です。時の経過とともに剥離しはじめていた外壁タイルが、つい先日、これまでどおりの姿のまま新たに焼きなおされ、貼り替えられ修繕を終えました。オーナーにお話を伺うと、以前は横浜市から建物保存に資するための助成があったそうですが、現在は助成も廃止されてしまったとのこと。その中で経済性よりも建物の歴史的価値の保存に尽力されたオーナーの尽力はいかばかりかと思えます。

建物は設計者もさることながら、その建物に関わる人たちが脈々と湛えてきた想いによって生きていくものではないかと思えます。人々に愛される建物のその歴史のほんの1フェーズにでも携わったら幸いと思い、精進しています。



馬車道大津ビル



モンパルナス・プロジェクト

抱負を語る

「共同作業論・続」



佐々木達郎

1960年代の『都市住宅』誌で組まれた特集に興味深い二つの論考があり記憶に残っている。それは、私の恩師である建築家、東孝光の特集だ。

一つは、「7日間のユリシーズ」というもので、建築家東孝光と当時の事務所スタッフが進行中のプロジェクトにおいて、設計者のイメージや理論の「外側」にある、クライアントや彼らの持っている体験の蓄積、さまざまな世界観の広さを建築に反映させるという設計プロセスについて、建築家の1週間の行動の報告によってその関係性を浮かび上がらせようとした試みである。

もう一つは、建築家とまわりにいるスタッフや職人、施工会社といった作り手側の「内側」の世界がどのような共同作業によって建築をつくりあげているのかを示そうとした「共同作業論」という特集である。

私自身、事務所を立ち上げ早くも5年が経過した。いくつかの小さな個人住宅の設計の他に、最近では、大きな都市型ホテルの設計監理を経験した。一つの建築をつくるために、クライアントをはじめ、スタッフや専門家、職人、施工会社等多くの人が関わるプロジェクトが増えてきた。一つの建築をつくるという共同作業に喜びを感じつつ、その共同作業のあり方について日々模索している。また、私にとっては、完成後に関わる、運営者、利用者、あるいは街の人々も含め、どのように建築に関わり、その建築や街が変化していくのかにも興味がある。

『都市住宅』誌の二つの特集の中に、その共同のあり方について、結論があったわけではないが、多くの人と関わりながら設計を進める共同作業の方法について、自分なりのかたちを見つけていきたいと考えている。



OMO5 東京大塚

(写真：ナカサ & パートナース)

アーバントリップ実行委員会

第86回JIAアーバントリップ

未来と過去

両端からの強い引力を感じながら



大竹 海

3月8日、第86回アーバントリップは、新しい空間を探り出す「太田市美術館・図書館」（平田晃久氏設計）・「川口市めぐりの森・イナパーク川口」（伊東豊雄氏設計）、過去の空間を今に蘇らせる「時間の倉庫（旧本庄商業銀行煉瓦倉庫）」（福島加津也氏＋富永祥子氏設計）の見学であり、過去と未来、真逆の時間軸の両端から引っ張られるような、強い力を体感できる有意義な旅であった。

■太田市美術館・図書館

「太田市美術館・図書館」には、「雑然の心地良さ」を強く感じた。統一感ではなく「多様性」、分けよよりも「混じり合い」、計画性よりも「偶然性」を感じさせる空間である。「あえてバラバラの椅子を配置する」というカフェインテリアが近年流行したが、そういった「包容力」と「自由」を含んだ洒脱なセンスと仕掛けが、ここに建築化されている。施設内外のあらゆる場所に隙間や重なりがあり、その曖昧さや不確定さに、使用者はオリジナリティを見出すのだろう。空間の質を敏感に感じ取りながら、誇らしげに楽しげに、自分なりの陣をはり、読書や調べものを行っている光景に出会った。駅前に建つ公共施設として、この包容力は理想的なものに映る。この建築を象徴するもののひとつが、屋内天井の剥き出しのデッキプレートであろう。デッキプレートの凹凸の向きはバラバラで、美的に整ったものとは言い難い。しかしコンクリートボックスと鉄骨の自由曲線で構成された動的空間は、このデッキプレートによって、さらに多様な方向



太田市美術館・図書館の外観

性を与えられている。「多様な人々が、多様なスタイルで使っている場所ですよ」と語り、誘っている。この建築の形は、使用者への行動提案の結果であり、形態美が優先された彫刻ではない、「場」の集合体^{ぶち}を縁取ったものといえる。

■時間の倉庫（旧本庄商業銀行煉瓦倉庫）

「時間の倉庫」は、設計者である福島加津也氏によるレクチャーが素晴らしかった。建築をクラシックカーに例え、120年前の建築を今に稼働させることの価値、驚き、格好良さを、鮮やかに、かつ易しく説明された。建築の保存やリノベーションという言葉に、もう一度磨きをかけるような珠玉の言葉の連なりであった。レクチャーの後の空間の見学では、古いディテールの数々を発見し、また新しいものとの組み合わせの謎解きをしながら歩き、ちょっとしたタイムトリップの感覚を味あわせていただいた。新しいものを追求する楽しみも良いけれど、過去というものは、それと全く同じ強度と興奮を持っているものだ、ということ強く教えてくれる建築であった。

■川口市めぐりの森・イナパーク川口

「川口市めぐりの森・イナパーク川口」は、公園内にある火葬施設である。公園と火葬場、この両者のマッチングの仕方にこの建築の要点がある。グニャグニャとしたクラゲのような三次曲面の外観は、周囲に計画される公園の森との一体感をはかっている。奇抜なものとしてされることの多い三次曲面は、自然の中においては、奇抜ではなく普通の形である、ということを示すのか。屋上には植栽があり、それらが今後育つことを容易に想像できる。建築と公園の緑はより一体感を増して、公園と火葬場の独自な関係を作っているのだろう。生活の中の「死」の存在を再考させる建築となるのかもしれない。

今回の旅では、設計者の方々の熱い思いと膨大な仕事量を拝見し、多大な勉強をさせていただきました。現地で説明をいただいた設計者の皆様、企画された実行委員の皆様、ありがとうございました。

交流委員会 Bグループ

Bグループの活動について

交流委員会
法人協力Bグループ代表幹事
双和化学産業
菅谷聖史



法人協力委員会Bグループでは、毎年、夏に軽井沢セミナー、11月に建物視察会、12月にゴルフコンペを開催しています。

その中でも2013年から恒例となり続けている軽井沢セミナーは、昨年も8月4日～5日に協力会員である化研マテリアル(株)の軽井沢保養所にて開催しました。

初日は2部構成で、第1部はCPDプログラムセミナーとして日本の建築構造物における防水材料の第一人者である東京工業大学名誉教授 田中享二先生をお招きし、「防水層に作用する風の力/防水層を突き破る根の力/草ぶき屋根はなぜ漏らないか?」について講演していただきました。Bグループは防水、塗料、左官材等を扱う施工業者、メーカー、商社で構成されています。常日頃から自然の影響を受ける仕上げ材を扱っていることもあり、風の力や植栽の根、また古来の建物が漏水しない理由といったテーマは、身近で非常に興味深いものでした。

第2部では、協力会員の方に新商品についてプレゼンしていただきました。時代のニーズを考慮した耐久性や環境に配慮された材料が紹介されました。初日のスケジュール終了後、中庭でバーベキューパーティーを開催し大いに懇親を深め、2日目は軽井沢72カントリークラブにてゴルフコンペを楽しみました。

協力会員の持てる技術を少しでも正会員の皆様からの要望にお応えするべく、情報交流の場として毎年軽井沢セミナーを開催しています。今年もまたその時期が近づいてきました。多くの参加を募り、開催していきたいと思えます。



バーベキューパーティー

交流委員会 Dグループ

より良い展示環境の具現化

交流委員会
法人協力Dグループ
コクヨ
飯沼朋也



2017年11月28日(火)に同年2月にリニューアルオープンした熱海のMOA美術館にて、和の美術品を鑑賞するのに最適化された空間を見る機会を得た。徹底的に和の美術品の展示にこだわった展示室や展示ケースのデザイン・設計に圧倒されることとなった。

昔の日本の美術品は床の間に置かれることが多く、その当時鑑賞していた環境を再現したような展示室や展示ケースは、日本の名作美術品をより引き立たせる効果を発揮していた。塗り仕上げ調の壁や和紙畳を使った展示台、そして古材の框など、伝統的な素材を使いながらも巧みなデザインによりモダンにまとめあげられていた。

より良い鑑賞のために、展示ケースのガラスへの映り込みを極限まで排除した手法は、その効果が秀逸であり、鑑賞者にまるでガラスが無いかのような錯覚をおこさせるほどであった。その手法とは展示室内への黒漆喰の壁の設置であり、展示ケースへの低反射高透過ガラスの採用である。併せて最新のLED照明を採用することで、その光の質の自然さや配光角度の最適化により、展示物を浮かび上がらせるような効果を生んでおり、作品の鑑賞に集中しやすくなっていると感じた。古い素材や伝統的な素材などを使用して高い質感を生み出し、そこに現代のテクノロジーを組み込むことにより、伝統的ながらモダンな展示環境となっている。

美術鑑賞が好きな方はもちろんのこと、建築空間や素材に興味がある方にとっても、気付きが多くインスピレーションを得られる場となっており、ぜひ訪れることをお奨めする。



MOA美術館の展示室

環境委員会

セミナー／
Web視聴の試み

環境委員会 委員長
長井淳一



新年度第一回目の企画として、5月12日にセミナー「再生可能エネルギー利用と建築デザイン」を環境会議・支部住宅部会との合同企画で開催しました。2015年のCOP21合意を背景とし、日本は2030年までに温室効果ガスを26%削減、家庭部門ではエネルギー起源CO₂の約40%削減を目標に掲げています。そしてZEH(ネットゼロエネルギーハウス)は、建築性能向上と再生エネルギー利用による大幅な環境負荷削減が期待されています。

今回セミナーでは、ZEHに欠かせない再生エネルギーとして、地中熱と太陽熱に焦点をあて多面的に学ぶ機会としました。第一部で環境省より「ZEH化等における低炭素化促進事業」(総額85億円・一棟あたり補助金70万円)についての事業説明、基調講演で末光弘和氏から最新環境建築の紹介、第二部では地中熱利用の先進地である北海道JIA会員3名から事例発表、そして海外の動向把握を挟み、第三部で太陽熱・地中熱利用の最新技術情報で締め括りました。幸いにも103名の参加をいただき(うち過半が一般)、環境テーマへの関心の高さが窺えました。

さて、今回のセミナーでは本部事務局の協力でWeb視聴を試みました。JIAの既設Webシステムを活用し各支部・地域会でライブ視聴するというものです。初めての試みであり周知不足とシステム機能に課題が残りましたが、関東・東海・九州・沖縄の支部および地域会、また会員事務所とつながり、試行としてはまずまずであったと思います。この試みは、会員サービスと同時にJIA基盤の拡充といえます。さらに会員拡大にも一役買うと期待しています。



セミナーの様子

建築交流部会

“温故知新”
「近代洋風建築研究会」

建築交流部会 部会長
観音克平



建築交流部会の活動状況については、本号のアンニアルレポートで報告していますので、ここではそのさまざまな活動の一つ、「近代洋風建築研究会」を紹介します。

これは、JIA建築家クラブを会場とし、昨年まで3年間にわたって行ってきた「スコラ建築セミナー」(主としてモダニズム研究)を引き継ぐ形の研究会で、日本の現代建築の背景、あるいは礎となっている明治以来の近代洋風建築について、今一度レビューしようというものです。そのケーススタディとして、昨年来、赤坂迎賓館(近代建築最初の国宝1909)を取りあげ、その歴史から計画、建築意匠の詳細に至るまで、多角的に研究しています。



さらに、部会の趣意に沿って、赤坂迎賓館に限らず日本の近代建築発展に寄与した内外の建築・建築家にも研究の対象を拡げています。研究会は、部外講師や研究者を招くなど、広く一般に開かれ、研究の幅を拡げ、質を高めています。

発表の後は、ポットラック(持ち寄り)・パーティーに移行し、講師を囲んで情報交換をするなど、切磋琢磨の機会としています。お国自慢の地酒あり、手作り料理ありで、これまた至福のひとつとなっています。

会員でなくとも誰でも歓迎ですので、お気軽にご参加下さい(差し入れ大歓迎!)



ポットラック・パーティー

建築家写真倶楽部

共に歩む、建築家と市民
歩き撮った
写真を通しての交流に！

建築家写真倶楽部 部長
兼松紘一郎



JR中央線を千駄ヶ谷で降りる。楨文彦氏による東京体育館を左手に、その傍の形になってきた隈研吾氏の設計による「新国立競技場」を見やり、その近さと大きいことに溜息をつきながら外苑西通りをJIA会館へ向かう。

かつて建築家写真倶楽部の創設を模索し、初代部長を担ったことに思いを馳せながら会議室へ。立ち上げたのは16年前にもなる2002年。まだ現役バリバリで仕事をしていた時、そしてこのたび2度目の代表を担うことになった。それはともかく、手元にある創設から4年を経た2006年度に記したJIAでの活動企画と報告を見遣る。

「写真は、何時の時代でも建築家にとって、創造と批評のための貴重なメディア(媒体)であり失ってはいけないドキュメント(記録)です」。

若き日の気負いが感じ取れる一言だが、苦笑というよりは微笑ましくもなった。この意向は“いま”に至るまで綿々と継承されてきたとも思うが、いずれ現社会状況を勘案し、その捉え方の再構築をすべきだろう、か！

ところで昨年10月の3日間、本会の会員が建てた岩手県雫石の山荘を訪ねた後、盛岡市と青森県弘前市の建築文化遺産を撮影した(僕は所用と重なり不参加)。思うことがある。時代の変遷・その受け止め方の一つ、僕自身がデジカメを駆使して写真を撮り、現在の社会状況と「人の生きる姿」と建築家の存在を見遣り「建築家模様」と題した一文を、ある建築雑誌に連載している。さて一言、僕たち建築家だけでなく、数多くの市民にも本会の活動に参加していただき、ともに次代を担っていききたいと思うものです！



横浜関内地域建築ツアーの集合写真(2016年6月18日)

栃木地域会

2018年度活動予定

栃木地域会 代表
阿久津新平



栃木地域会は「まち歩き・建築見学会」、「スクールin栃木」、「JIA栃木クラブ賞」、「JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール」、会員のサロン「栃木クラブ建築物」の5つの事業を核に活動する予定である。

上記事業活動に付随する主要テーマを3点挙げる。

●栃木地域会は会員18名である。会員は高齢化しており、活発な活動を行うためには若手会員の増強が喫緊の課題になっている。そこで3年前から地元で活躍している若手建築家に対してJIA入会の勧誘に努めてきた。「JIA栃木クラブ賞」(卒業設計コンクール)の公開審査会には地元の若手建築家を2名ずつ招待審査員として招き、JIAとの交流を深めている。招待審査員にはかつて栃木クラブ賞受賞者もいて、これまでJIAとの良好な関係が築かれてきたが、残念ながら入会の実績はない。今年も積極的に会員増強の働きかけを行っていく。

●「栃木クラブ建築物」は昨年度から始めた会員のサロンである。昨年度は2つの旅の報告があった。「旅」には会員各自の独特のスタイルがあり、興味ある話題で盛り上がった。若手建築家たちをこのサロンに招いて、自由な雰囲気の中で語り合い交流を深めていきたい。このことが会員増強につながればと考えている。

●「スクールin栃木」は、昨年、群馬県太田市で建築見学会を開催した。この事業は県内の建築を学ぶ学生を対象とし、交流や体験を通して豊かな感性の育成と研修をすること、会員の自己研鑽を目的にしている。他県での開催の場合、他の地域会との協力、共催などを検討していきたいと考えている。



JIA栃木クラブ賞(2017年度)表彰式

新潟地域会

月例会充実で 出席率アップ!



新潟地域会 代表
平原 茂

新潟地域会には正会員28名、準会員(シニア会員)1名そして19社の協力会員が所属しています。毎月第三金曜日に月例会を開いています。連絡事項や、イベントの準備状況の説明など事務的な報告がメインとなっていますが、会員同士の貴重な交流の場ともなっています。

面白味のある会議ではないため、出席者も毎回同じ顔触れが続いていました。広い新潟県の各地にいる会員が新潟市に集まることが時間的にも負担の多いことも事実です。地理的に県の中心に近い長岡市で月例会を開いたこともありましたが、会員数の多い新潟市で開かれることに落ち着いてきました。会議の後すぐ飲み会に移行できるようにカフェでやったこともありましたが、車で来る人も多く飲み会参加者は半減でした。

何とかこの月例会の出席率を上げたい。単なる報告の場ではなく、もっとワクワクするような月例会にしたいとの思いから、昨年度から月例会で1時間程度のレクチャーを計画しました。正会員と協力会員を交互にレクチャーとして話をしてもらうのです。自作の紹介や、自分の興味ある分野の話など、1年を過ぎてみると内容は当初の想像以上に多岐にわたっていました。

自作をプロジェクターで映しながら解説するのが一番多い例でしたが、ある会員の時は手描きの図面の展示でした。この図面がロール状の巻紙で20mや30mの長さなのです。1本のロールの中に基本図から原寸図、さらにパースまで描き込んでいました。これを何本も展示していましたが、手描き図面の持つエネルギーに全員が圧倒されていました。

協力会員のレクチャーも単に商品説明にとどまらず、開発時の裏話など興味深い話も多く聞けました。質疑応答でも会員からの率直なマイナス面での感想も出たり、会員と協力会員との垣根が低くなったと自負しています。おかげでレクチャーを始めてから月例会の出席率が上がりました。3割から5割ほど出席者が増えたのです。

今年度もさらにレクチャーの充実を図っていきます。CPD登録も予定しています。この流れを戻さないためにも2年目の真価が問われています。

長野地域会

4年間の活動を 振り返って



長野地域会 前代表
山口康憲

2014年から4年間地域会代表を務めさせていただきました。長野地域会は1987年の設立以来、常に活発に活動してきました。就任にあたり、伝統を継承した上で、将来の会員減少を見据えた準備の役割を果たしたいと考えました。

●地域貢献として、前任者から引き継いだ地域材の普及に努めました。地域材を使った住宅の促進と年2回の勉強会を県下各地で開催。また2014年11月に発生した長野県神城断層地震では、被災証明の2次調査を中心的に行い、2017年3月には長野県と建築五会で災害時の協定を締結しました。●会員の資質の向上と地域貢献の目的で、3年にわたり「環境セミナー」を開催。2年目からは県と建築他会の後援を得て、行政や非会員、県外からの参加者も含め年間延べ450名が参加し、準寒冷地における住居の温熱環境を最新の技術と情報を用いて研修しました。長野県からも高い評価をいただきました。●文化講演会、学生卒業設計コンクール、会員作品展で構成された「建築祭」は、松本市美術館に会場を移して10年目を迎えました。認知度も上がり多くの市民が来場しました。美術館との共同開催が2017年度からはJIAの単独開催になり、これからは準美術団体としての真価が問われることになりそうです。●広報の重要性に鑑み、会報、HP、出版の役割の見直しを行いました。活動報告はすべてHPに移して、会報は公益的な内容に改めました。HPは2016年に大幅なリニューアルを行いました。それまであまり活用されているとはいえませんでした。分かりやすさと頻繁な更新によって来場者数は飛躍的に増加しました。

その他にもさまざまな活動があり、相対的に見て積み残しの課題もあって、「準備の役割」を十分に果たせたかは疑問に感じています。次世代に期待したいと思います。



2017冬のセミナー(神長官守矢史料館) フィールドワーク集合写真

TOKYO 2018

2018年9月13日(木) - 15日(土)

今年9月に開催される「JIA建築家大会2018東京」、大会実行委員会からのお知らせです。

●大会テーマ

素なることと多様な相
Simplicity | Multiplicity

単純な形や単位から多様な空間を構築していく方法論は、現在では流行を超えて、すでにスタンダードとなりつつあります。これを高次に捉えれば、いま手に入る材料と技術だけでさまざまな用途や規模の強くて安全な建築を考える我々の普遍的な職能も、この関係性の相似形といえるでしょう。

「素なることと多様な相」とは、同時開催されるアルカジア東京大会2018のテーマ「Simplicity | Multiplicity」の邦題であるとともに、そうした現代的な設計手法と、立ち戻るべき建築家のありかたを重ね、3つの意味が込められた、全国大会のメインコンセプトです。

IT技術で地方との情報格差もほぼ解消された東京における14年ぶりのJIA建築家大会と18年ぶりのアルカジア大会の同時開催にあたっては、東京の地域性よりむしろ、建築家の職能やJIAの存在意義そのものを大きくテーマに掲げ、これらを見直す絶好の機会にしたいと考えています。

●大会スケジュール

「JIA建築家大会2018東京」のメインプログラムは、9月14日(金)・15日(土)の2日間です。また、同じ週に開催される「ACA18 TOKYO (アルカジア東京大会2018)」と連携しており、JIA建築家大会に登録した方は、JIA会員に限らず13日(休)のACA18プログラムから参加することができます。プログラムの詳細はJIA建築家大会のサイトに掲載しています。そちらもご覧ください。

〈主なプログラム〉

(メイン会場：明治大学駿河台キャンパス)

9月13日(木)		9月14日(金)		9月15日(土)	
9:00 ～ 9:45	開会式(同時通訳付) ご挨拶		テーマセッション4 テーマ：SDGs (同時通訳付) 基調講演 3 ショートトークセッション	9:00 ～ 12:00	全国会議(環境、保存、災害、まちづくり)合同シンポジウム テーマ：地域ポテンシャルを活かす/ストックの再評価
10:00 ～ 12:00	テーマセッション1 テーマ：Simplicity Design (同時通訳付) 基調講演 1 テーマプレゼンテーション 1 Design	13:00 ～ 15:00	JIA 基調講演4 / メインシンポジウム (同時通訳付) テーマ：「Simplicity Multiplicity」 ～素なることと多様な相～	13:00 ～ 16:00	「大井町駅前パブリックスペース設計コンペ」 公開二次審査
13:30 ～ 15:30	テーマセッション2 テーマ：Multiplicity City (同時通訳付) 基調講演 2 テーマプレゼンテーション 2 City	15:30 ～ 18:00	「建築の日本展」鑑賞 [森美術館]	17:00 ～ 20:00	若手セッション ＋クロージングパーティー [建築家会館]
15:50 ～ 16:30	テーマセッション3 テーマ：Multiplicity Technology (同時通訳付) テーマプレゼンテーション 3 Technology	18:00 ～ 20:00	大会式典・レセプションパーティー [グランドハイアット東京]		
18:00 ～ 22:00	Friendship Night [ニューオータニ]	20:30 ～ 23:00	JIAバンドパーティー on JIA 建築家大会 [BIRD LAND]		

※プログラムの詳細は、『JIA MAGAZINE』353号やJIA建築家大会のサイトをご覧ください。

公開審査

大井町駅前パブリックスペース設計コンペティション

東京都品川区主催の公共建築実施コンペ

9月15日(土)

13:00～16:00

会場：明治大学駿河台キャンパス
アカデミーホール
(作品展示はアカデミーコモン1F)

「公共建築の実績がないと、挑戦すらできない」という状況は、将来的な経験者不足、発注側の選択肢の減少を招き、多様性・公益性の面でも社会にとって不利益です。次代の建築家には、公共への入口という希望を、他の自治体には同様の公共建築コンペ開催の機運を、JIA自体には発注者支援を行える職能団体としてのプレゼンスをいち早く内外に示すことを目的に、品川区の公共建築実施コンペ開催に協力し、今回このJIA建築家大会2018東京で二次審査を公開します。

概要

品川区では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に伴う海外からの来訪者の増加等が予想されることから、利用頻度の高いターミナル駅周辺や会場までのアクセス道路周辺の公衆便所・公園便所の洋式化やだれでもトイレの整備を進めている。

今回対象とする公衆便所および公園はJR・東急大井町駅前に位置し、現在も通勤・通学者や商業施設の利用者の通行頻度が高いことに加え、その姿を駅構内からも窺うことができるため、機能的かつ意匠にも優れたものとする必要がある。

鉄道会社の営業線が近接し、暗渠河川も公園内を横断している制限の多い敷地条件の中で、品川区の玄関口である大井町駅前にふさわしい、機能的で景観に配慮された魅力的な作品を募集する。

本設計コンペティションにおいて選出された最優秀作品の応募者を、業務委託の担当者とする。

計画対象

JR・東急大井町駅前公衆便所および大井駅前公園(駐輪場、分煙コーナーを含む)の修景

参加資格

一級建築士事務所であること

スケジュール

参加表明書受付期間

平成30年6月25日(月)～7月27日(金)

提案作品受付期間

平成30年8月3日(金)～8月24日(金)

1次選定結果発表

平成30年9月4日(火)

2次選定(公開ヒアリング)および最終結果発表

平成30年9月15日(土) JIA建築家大会東京メイン会場にて

審査員 (敬称略)

委員長



千葉 学

建築家
東京大学教授
JIA正会員

委員



武井 誠

建築家
JIA正会員

委員



原田麻魚

建築家
JIA正会員

他、品川区職員2名

主催・事務局等

主催者：品川区

担当課：品川区防災まちづくり部公園課公園建設担当

〒140-8715 品川区広町2-1-36

電話：03-5742-6801 FAX：03-5742-9127

電子メール：koen-koen@city.shinagawa.tokyo.jp

支援・協力：公益社団法人日本建築家協会 (JIA)

■詳しくは、品川区公式ページの応募要項(PDF)をご覧ください。

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kankyo/kankyo-park/20180621100713.html>



計画対象地

基調講演、メインシンポジウム

「Simplicity | Multiplicity」～素なることと多様な相～

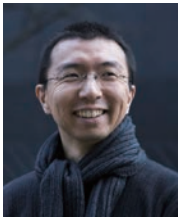
9月14日 **金**

13:00～15:30

会場：明治大学駿河台キャンパス
アカデミーホール

本大会の基調講演は、世界的に活躍する建築家・藤本壮介氏と、アーティスト・野老朝雄氏をお迎えします。大会テーマである「素なることと多様な相」を受け、クリエイティブな作品を生み出す思考の根源に触れる話をうかがいます。後半は、建築史家・建築評論家である五十嵐太郎氏にモデレーターとしてご登壇いただき、建築と都市、アートとデザインの未来について、縦横に議論を展開していきます。

〈登壇者〉



藤本壮介 Sou FUJIMOTO

建築家

1971年北海道生まれ。
東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞、2015年パリ・サクレ・エコール・ポリテク ニーク・ラーニングセンター国際設計競技最優秀賞につき、2016年Réinventer Paris 国際設計競技ポルトマイヨ・パーシング地区最優秀賞を受賞。

〈モデレーター〉



五十嵐太郎 Taro IGARASHI

建築史・建築批評家

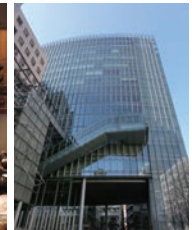
1967年生まれ。
1992年、東京大学大学院修士課程修了。博士(工学)。現在、東北大学大学院教授。あいちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッショナー、「窓学展示—窓から見える世界—」の監修を務める。第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。



野老朝雄 Asao TOKOLO

アーティスト

1969年東京生まれ。
幼少時より建築を学び、江頭慎に師事。2001年9月11日より「繋げる事」をテーマに紋様の制作を始め、美術、建築、デザインの境界領域で活動を続ける。単純な幾何学原理に基づいて定規やコンパスで再現可能な紋と紋様の制作や、同様の原理を応用した立体物の設計・制作も行っている。2016年～東京大学工学部非常勤講師、東京造形大学客員教授。2017年～筑波大学非常勤講師。



パーティー

大会式典・レセプションパーティー

建築家大会とACA18 TOKYOの参加者が集う懇親の場

9月14日 **金**

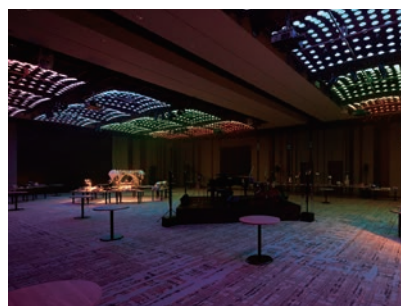
18:00～20:00

会場：グランドハイアット東京

大会レセプションパーティーは、グローバル感溢れる東京・六本木のランドマーク「六本木ヒルズ」にある、ラグジュアリーホテルとして名高い「グランドハイアット東京」を会場に大会式典を兼ねて開催いたします。また、六本木ヒルズ内の森美術館で開催中の「日本の建築展」では、日本建築の遺伝子を考察する数々の建築資料や模型400点が展示されており必見です。メイン会場(明治大学)からの移動後、レセプションパーティー開始までの時間に、ぜひご覧ください。

プログラム

1. 開会のことば
2. 主催者挨拶
3. 来賓挨拶
4. 来賓紹介
5. 名誉会員紹介
6. フェロー会員紹介
7. 乾杯
8. 歓談(祝電披露)
9. 次回大会PR(東北支部)
10. お礼挨拶
11. 閉会の言葉



地域ポテンシャルを活かす／ストックの再評価

環境・保存再生・災害・まちづくりの視点で考える！

9月15日 土

9:00～12:00

会場：明治大学駿河台キャンパス
アカデミーホール

高度成長社会において通用していた都市や建築に対する考え方は、縮小社会においてさまざまな歪みを生み出し成り立たなくなっています。地域のポテンシャルを活かすことは、既存のストック、すなわち街や建物、人や文化、歴史を活かすことであり、それには新たな捉え方や方法が求められます。これを具体的にドライブするためには、環境・保存再生・災害・まちづくりの分野横断的な視点で深彫りすることが大切です。この手がかりとして、このシンポジウムでは「仕組、技術、作品」から論じるとともに、建築家の能力をどのように活かすべきかといった、今後の職能論、建築家の職域をどのように拡げていくか、を浮き彫りにします。

〈コメンテーター〉



塚本由晴
Yoshiharu TSUKAMOTO
建築家



大島芳彦
Yoshihiko OSHIMA
建築家

〈モデレーター〉



安田幸一



彦根アンドレア



篠田義男



倉方俊輔



松下 督



今野照夫



松本 昭



連 健夫

討議
+
懇親

若手セッション＋クロージングパーティー

若手建築家6人による公開トークセッション

9月15日 土

17:00～20:00

会場：建築家会館大ホール＋
建築家クラブ

全国大会最終日の最終時間帯に、コンペ参加者を含む大会全体の仕上げを兼ねた懇親会の枕として、近未来研究特別委員でもある関東甲信越支部の40代メンバーが登場し、建築家やJIAについて、公開で忌憚なく論じ合うトークセッション。次世代会員も期待を帯びながらJIAの組織改善のために、後半には会員・非会員問わず意見を受け付け、続く懇親会だけでなく、後々の建設的議論の参考になる有意義な意見交換の場になればと考えています。

〈登壇者〉



井上 宏



水越英一郎



小笠原正豊



羽鳥達也



西田 司



相坂研介

パーティーでは生ハムもご用意します！



クロージングパーティーでは、スペイン産生ハム(足1本)が登場します。建築家大会の実行委員会メンバーがおもてなしをする手作りパーティーです。ぜひ大会最後までお楽しみください。

市民の声を まちづくりに活かす仕組み



建築・まちづくり
委員会
上村千寿子

専門外なのですが、新国立競技場問題をきっかけに市民の一人として建築・まちづくり委員会に参加させていただいています。

5月24日付の『毎日新聞』の記事「文京・マンション建築確認白紙の裁決『判断に誤りなし』」で、文京区に建設中だったマンションが完成直前に建築確認取り消しの採決を受け、それを不服として、建築主2社が採決を取り消すよう求めていた訴訟で「採決の判断に誤りは無い」として請求を棄却したと報道されました。これは、マンション計画の安全面に疑問を持った近隣住民が、計画変更を事業者に求めたものの、対応されなかったことから行政手続きで建築確認の取り消しを求めたものです。その結果、完成間近のマンションは安全基準を満たしていないと判断され、建築確認は取り消され、すでに2年半も工事が止まったままです。

文京区は以前から裁判に持ち込まれるマンション紛争がいくつも起きていますが、区は私人間の争いと考えていて、区民の切実な訴えに対して必要な対策を取っているようには思えません。

一方で、市民の声を質の高いまちづくりに活かそうと積極的に取り組んでいる自治体もあります。人口が増えている郊外の街として有名な流山市では、一定規模以上の開発行為などの場合に申し出があれば、近隣住民、事業者、専門家による委員会の三者が、公開の場で協議をし、紛争の解決を図る協議調整型のまちづくり条例を制定しています。

協議の場では、近隣住民が問題点を整理して説明しますが、限られた時間で住民も説得力のある主張をしなければなりませんから相当な勉強をします。条例や都市マスタープラン、類似した建物と周囲への影響などを調べ、提案の根拠を示します。それを受けて専門家からは、住民提案を改めて整理したり、解決のための助言や具体的な提案が示されます。住民、事業者の双方が合意した場合、協定が結ばれ、事業者は開発許可申請に進むことができますが、途中で決裂する場合も出てきます。これらの手続きの中で住民側も主張しながら、まちづくりにつ

いてたくさん学ぶことになります。

類似した仕組みは、狛江市、武蔵野市、国分寺市、八潮市などでも導入されていますが、文京区にもこの協議調整の仕組みがあったら、事業者もこれほどリスクの高い選択をする必要はなかったかもしれません。

■日本版CABE(建築・まちづくり支援機構)の誕生

先進国では、一般的に建築計画に市民の声を反映させる仕組みがあるといいますが、日本の法制度にはその発想が全くないままです。日本でまちづくりの制度がなかなか理解されないのは、実質的に市民参加が少ないことの表れではないかとも思います。

この協議調整の仕組みを導入している自治体もまだ少数で、この仕組みについて十分に理解し、協議をサポートできる専門家もまだまだ足りないでしょう。建築紛争の当事者の多くは有効な助言も受けられないまま、力と力のぶつかり合いになりがちで、そのままでは本来あるべき「住みやすく美しい街」へと繋がることは難しくなります。

日本版CABE(建築・まちづくり支援機構)の活動によって、まちづくりにおける協議調整の仕組みが普及し、協議をサポートする専門家がたくさん誕生することで、専門家と住民の意見を活かした、住みやすく美しい街並びが全国に生まれることを期待しています。



激しく対立するデベロッパーと住民(名古屋市)

『北の桜守』

2018年製作

監督：滝田洋二郎

全国公開中(6月末現在)

『北の零年』(2005)、『北のカナリアたち』(2012)に続き、雄大な北海道を舞台に壮大なスケールで人間模様を描く「北の三部作」の最終章。日本映画史における唯一無二の映画女優・吉永小百合は、節目となる自身120本目の作品を『北の桜守』と熱望し、北海道命名から150年の2018年、北の大地で新たな一大巨編が誕生しました。

監督は『おくりびと』(2008)で日本アカデミー賞最優秀作品賞、最優秀監督賞、他11の賞を受賞し、米国アカデミー賞で外国語映画賞を受賞した巨匠・滝田洋二郎。吉永小百合とは映画の舞台となるサハリン(南樺太)に撮影前に行くなど(北の三部作の脚本家・那須真知子も同行)、事前に綿密な意見交換を行い、この作品への強い思いを共有したそうです。

戦後のサハリンの悲劇は映画の中では舞台で表現。舞台演出はケラリーノ・サンドロヴィッチで、群舞表現も含め大変良くできていました。

出演者は、主人公・江蓮^{えづれ}てつ(吉永小百合)、夫・江蓮徳次郎(阿部寛)、次男・江蓮修二郎(堺雅人)、その妻・江蓮真理(篠原涼子)、樺太時代からてつを知る山岡和夫(岸部一徳)、菅原信治(佐藤浩市)、ほかに中村雅俊、高島礼子、笑福亭鶴瓶、永島敏行、安田顕、野間口徹、毎熊克哉など実力派揃い。ベテラン、名優が重厚な演技でこの映画を盛り上げています。

撮影監督は浜田毅、音楽は小椋佳、舞台パートで歌われる主題歌「花、蘭の時」をはじめ22曲を吉永、阿部を中心としてHoriuchi-Kohei、仙石みなみ、田崎あさひ、長谷川萌美らのコーラスで花を添えています。

戦前、戦後、現在までの歴史と人々の幸せと苦悩、そして吉永小百合の1959年の映画初演から、28本目の有名な『キューポラのある街』(浦山桐郎監督)を経て120本目の作品『北の桜守』で描かれるエゾヤマザクラを巡る人間模様。この雄渾な歴史に残る意義ある映画を、皆さまぜひご鑑賞されるようお勧めします。

(映画『北の桜守』プログラムより)

(立石博巳)

広報委員として2017年度を振り返る

編集後記

- 6年ぶりに戻った支部広報で新Web担当者となり、ようやく完成となるや否や、JIA神奈川の新Webも関わり、今は、全国大会Webを担当している。広報三昧の1年は続く!(中澤)
- あつという間の1年でした。まだまだ勉強することばかりですが、すこしずつ貢献できるよう頑張ります。(会田)
- 2017年は四国大会(徳島)、4日間参加、HPの改定、交流委員会のさまざまなイベント参加、特に3月に行われた「フェーズフリー」の佐藤唯行社長の講演、5月に都市デザイン部会の鹿児島研修旅行(4日間)に参加など多彩な催しに関わりました。有り難うございました。(立石)
- 「覗いてみました他人の流儀」で、魅力的な方々と出会えた2017年度。この出会いを大切にしたい。(有泉)

- あつという間の2017年度でしたが、残り1年足らずの任期を何とか全うしたいと思います。(中山)
- いつもながら今年度もお役に立てず痛み入ります。(上原)
- 不慣れ力不足ながらもなんとか誌面刷新し、1年無事に『Bulletin』を皆さんに届けることができ本当に感謝です。(長澤)
- この間年が明けたと思ったらもう夏…。後半頑張ります。(古谷)
- 昨年度はお力になれず恐縮しています。本年は微力ながら協力したいと思っています。(吉田)
- あつという間に年度が変わり、こうやって歳を取るんだと実感する日々です。(清水)

編集 : 公益社団法人日本建築家協会
関東甲信越支部 広報委員会

委員長 : 市村宏文

副委員長 : 長澤 徹

委員 : 会田友朗・有泉絵美・小山将史・清水裕子・中澤克秀・
中山 薫・古谷俊一・吉田 満

編集長 : 長澤 徹

副編集長 : 小山将史

編集ワーキングメンバー : 有泉絵美・中山 薫・八田雅章・立石博巳・
会田友朗・上原和彦・古谷俊一・吉田 満

編集・制作 : 南風舎

Bulletin 276 2018 夏号

発行日 : 平成30年7月15日

発行人 : 浅尾 悦子

発行所 : 公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA館

Tel : 03-3408-8291(代) Fax : 03-3408-8294

印刷 : 株式会社 協進印刷

■ JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧

・ (公社) 日本建築家協会 (JIA) <http://www.jia.or.jp/>

・ JIA 関東甲信越支部 <http://www.jia-kanto.org/>

■ 定価 300円+税/会員の購読料は会費に含まれています。

© 公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2018



tomita
TOKYO

京橋エドグランですべてのトミタをご体感ください

トミタのすべてが揃うショールーム tomita TOKYO は東京のランドマーク「京橋エドグラン」にあります。日本の伝統素材と技を駆使したトミタオリジナル壁紙、45 ブランドに及ぶ海外の壁紙、ファブリックス、モールディング、家具、ラグを、実際に見て触れて本物の質感をご体感いただけます。2Fは、イタリアプロメモリアの家具を設えた空間です。また、大切な方へのギフトとしてブランドアクセサリーもご用意いたしました。ぜひお気軽にご活用ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

tomita TOKYO

東京都中央区京橋 2-2-1

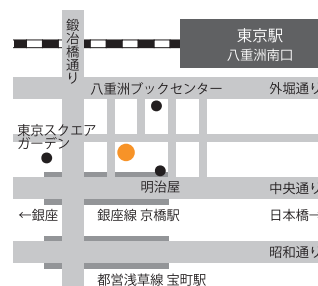
京橋エドグラン 1F

TEL.03-3273-7500

FAX.03-3273-7551

営業時間：11：00～19：00

定休日：年末年始



東京メトロ銀座線 京橋駅8番出口に直結
JR 東京駅八重洲南口より徒歩5分



株式会社トミタ

〒141-0022 東京都品川区東五反田 5-25-19 東京デザインセンター 6F A・B TEL.03-5798-0081 www.tominet.co.jp

